

瀬戸市高齢者総合計画

(第10期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画)
～やすらぎプラン2027～

計画の概要・アンケート等のまとめ

目 次

第1章 計画の概要.....	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけ	3
3 他計画との関係	4
4 計画の期間	4
5 計画の策定体制	5

第2章 高齢者の現状と課題.....	6
1 人口・世帯	6
2 要介護認定者数・認定率	8
3 介護保険事業の状況	9
4 アンケート調査に基づく本市の課題	13
5 日常生活圏域別の状況について	32

-----（予定）-----

第3章 基本理念と施策体系

第4章 分野別施策の展開

第5章 計画推進のための評価指標

第6章 介護保険サービスの見込みと介護保険料

第1章 計画の概要

1 計画策定の趣旨

- 第134回社会保障審議会介護保険部会（令和8年3月9日）資料より抜粋
- 2040年には、介護と医療の複合ニーズを抱える85歳以上人口、認知症高齢者、独居の高齢者等の増加と同時に、生産年齢人口の減少が見込まれる中、地域の規模によって高齢化・人口減少のスピードに大きな差が生じること等も踏まえ、地域の状況に応じた、きめ細かな対応が求められています。
- 地域の実情に応じて、2040年に向けて地域包括ケアシステムを深化させ、医療・介護の一層の連携を図り、介護人材の確保、介護現場の生産性の向上を図るための取り組み等を十分に勘案した上で、具体的な取組や目標を介護保険事業（支援）計画に定めることが重要です。
- 中長期的な推計に基づくサービス提供体制の計画的かつ広域的な議論を進めることができるよう、都道府県及び市町村は、第10期計画策定に向けて、時宜の論点について必要なデータの整理、地域分析等を行い、都道府県・市町村間で課題認識等の共有・意見交換を行うなど連携し、2040年を見据えた第10期計画の策定に取り組むことが求められています。

1. 介護サービスの種類ごとの量に関する中長期的な推計について

- ・市町村は、市町村全体及び地区・地域別の状況を確認すること
- ・サービス見込量は、2040年度を含む中長期的な推計を確認すること

2. 地域の分類に基づくサービス提供体制の確保に向けた議論について

- ・介護サービスの種類ごとの量に関する中長期的な推計と併せて、地域ごとのサービス提供の課題に係る実態を把握し、対応の検討を早期に開始すること

3. 医療・介護連携の推進について

- ・2040年にかけて、介護と医療の複合ニーズを有する85歳以上の高齢者が一貫して増加することを踏まえ、適切な医療・介護サービスの受け皿を確保するため、2040年に向けた医療・介護連携に係る提供体制等について、各地域において検討を行うこと

4. 高齢者向け住まいの設置状況等の勘案について

- ・有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅が多様な介護ニーズの受け皿となっている状況を踏まえ、第10期計画の策定においては、これらの入居定員総数や、要介護者の人数、利用状況等も踏まえて、介護ニーズの見込み等を定める必要があること

5. 介護人材確保と職場環境改善に向けた生産性向上、経営改善支援等について

- ・介護サービス需要が更に高まる一方で、生産年齢人口の減少が見込まれる中、介護サービスの提供やその体制の確保のため、人材確保・生産性向上・経営改善支援について一体的に推進することが必要であること

6. 認知症施策の推進について

- ・認知症の人の社会参加の場や必要な保健医療サービス及び介護サービス等について、データを活用して現状を確認し、共生社会を実現するために必要な今後の具体的な取組を定めて記載すること

2 計画の位置づけ

- 本計画は、老人福祉法第20条の8の規定に基づく「老人福祉計画（高齢者福祉計画）」及び介護保険法第117条の規定に基づく「介護保険事業計画」を一体的に策定します。
- 「老人福祉計画（高齢者福祉計画）」は、本市のすべての高齢者を対象とした、高齢者福祉サービスをはじめとする生涯学習、まちづくり等的高齢者に関わる施策の基本的な指針を、また「介護保険事業計画」は、本市の介護保険事業に関する保険給付の円滑な実施に関することを定めるものです。
- 本市においては、上記の二つの計画を高齢者に関する総合的な計画として、「瀬戸市高齢者総合計画」という位置づけ及び名称としています。

本計画の根拠法

◎老人福祉法

（市町村老人福祉計画）

第二十条の八 市町村は、老人居宅生活支援事業及び老人福祉施設による事業（以下「老人福祉事業」という。）の供給体制の確保に関する計画（以下「市町村老人福祉計画」という。）を定めるものとする。

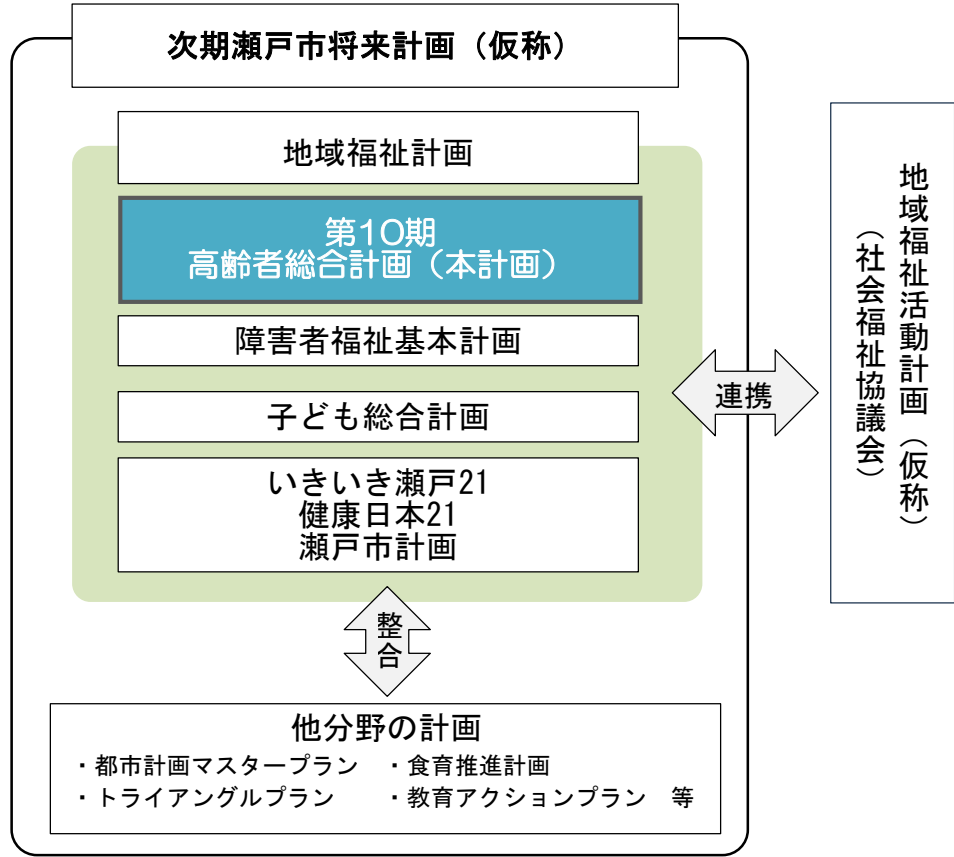
◎介護保険法

（市町村介護保険事業計画）

第百十七条 市町村は、基本指針に即して、三年を一期とする当該市町村が行う介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施に関する計画（以下「市町村介護保険事業計画」という。）を定めるものとする。

3 他計画との関係

- 本計画は、本市の市政運営の基本的な指針である「次期瀬戸市将来計画（仮称）」や、総合的な福祉の方向性を示す「瀬戸市地域福祉計画」等、他の計画との整合性を図りながら策定します。



4 計画の期間

- 「介護保険事業計画」は介護保険法第117条に基づき3年間を1期とし、また「老人福祉計画（高齢者福祉計画）」は老人福祉法第20条の8に基づき「介護保険事業計画と一体のものとして作成」することが定められていることから、本計画の期間は令和9（2027）年度から令和11（2029）年度までの3年間とします。

計画の期間										(年度)
令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	令和12 (2030)	令和13 (2031)	令和14 (2032)	...	令和22 (2040)
第9期			第10期 (本計画)			第11期				
中長期的な視点										

5 計画の策定体制

(1) 調査の実施

- 計画の策定にあたり、本市の高齢者福祉や介護保険事業に関わる市民・事業者の現状や意識を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として、令和7年11月から令和8年1月にかけて、各種アンケート調査を実施しました。

調査種別	調査内容・対象	調査方法	配布数・回収率	調査時期
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	瀬戸市に居住する要介護1～5の認定を受けていない65歳以上の人	郵送による配布・郵送及びWeb回答による回収	配布数：2,500件 回収数：1,793件 回収率：71.7%	令和7年11月27日～令和7年12月19日
②在宅介護実態調査	瀬戸市に居住する65歳以上で要介護認定を受けている高齢者及びその主な介護者である家族・親族	郵送による配布・回収	配布数：600件 回収数：390件 有効票：389件 回収率：64.8%	
③介護人材実態調査	令和7年10月1日現在に瀬戸市内にあるすべての施設・通所系、及び訪問系のサービス事業所	メールによる配布・Web、メール、郵送による回収	施設・通所系事業所票 配付数：128件 回収数：106件 回収率：82.8%	令和7年12月1日～令和8年1月9日
			訪問系事業所票 配付数：47件 回収数：40件 回収率：85.1%	
			訪問系職員票 回収数：249件 有効票：248件	
④居所変更調査	令和7年10月1日現在に瀬戸市内にあるすべての施設・居住系サービス事業所	メールによる配布・Web、メール、郵送による回収	配布数：73件 回収数：42件 回収率：57.5%	

※①、③、④の回収数はWebとメールを併用した回収数です。

(2) 策定委員会の設置

- 本計画の策定にあたっては、市民代表、学識経験者、医療・保健・福祉関係者により構成された「瀬戸市高齢者総合計画策定委員会」において、審議を行います。

(3) パブリックコメントの実施

- 本計画の策定にあたっては、広く市民の意見を求めるためにパブリックコメントを実施します。

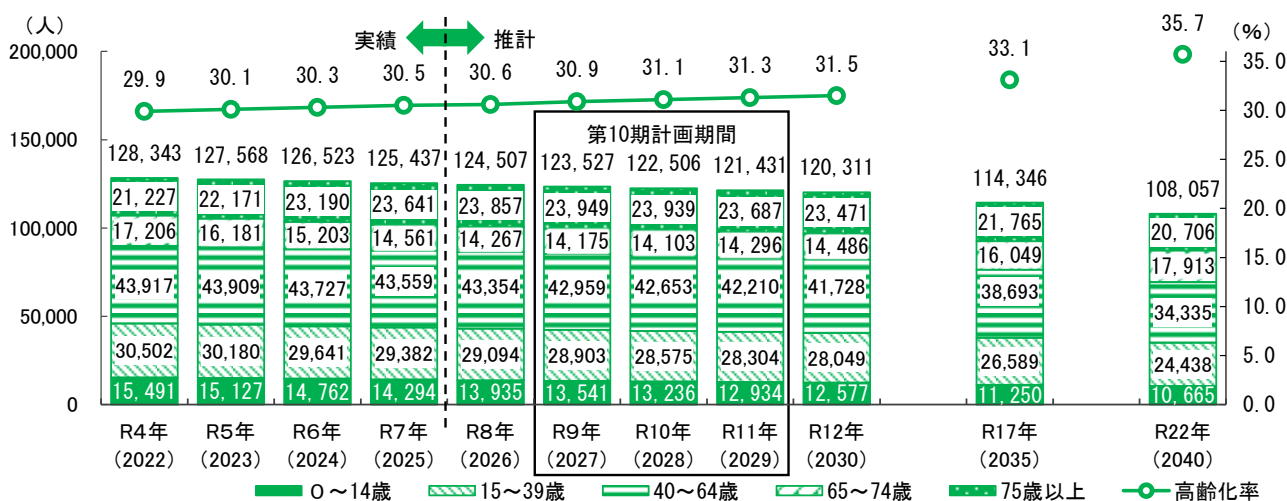
第2章 高齢者の現状と課題

1 人口・世帯

(1) 総人口及び高齢者人口

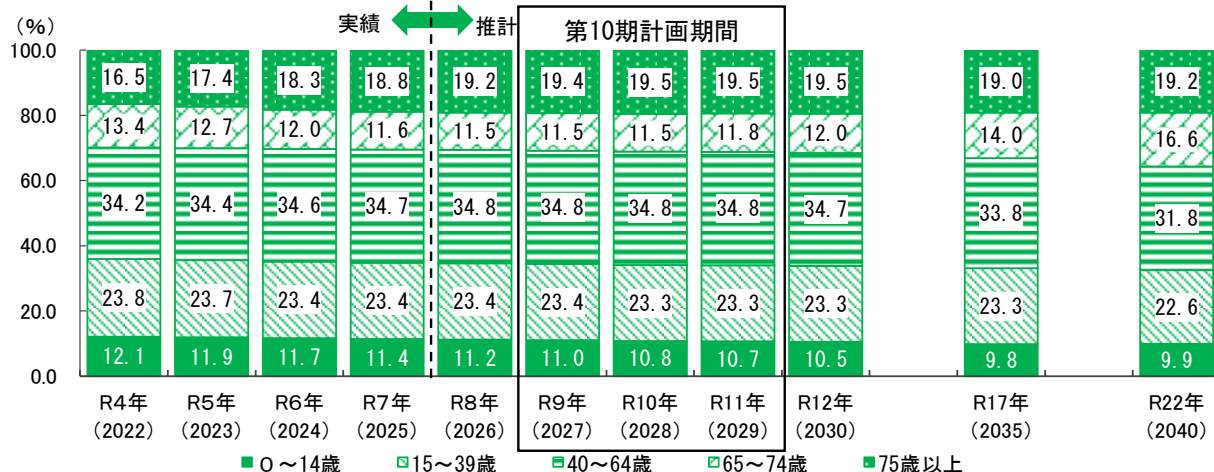
- 本市の人口は令和7(2025)年10月1日時点で12万5,437人となっており、近年は緩やかな減少傾向が続いています。一方、令和7(2025)年の高齢者人口は3万8,202人、高齢化率は30.5%となっています。
- 令和4(2022)年から令和7(2025)年までの住民基本台帳の年齢別人口の変化に基づくコーホート変化率法によって、将来人口を推計したところによると、第10期計画期間中、65歳以上の人口はほぼ横ばいで推移する見込みです。高齢化率は令和11(2029)年には31.3%、令和17(2035)年には33.1%となる見込みです。

■年齢5区分推計人口の推移（※各年10月1日時点、令和8(2026)年以降は推計値）



資料：住民基本台帳（令和7(2025)年まで）

■年齢5区分推計人口割合の推移（※各年10月1日時点、令和8(2026)年以降は推計値）

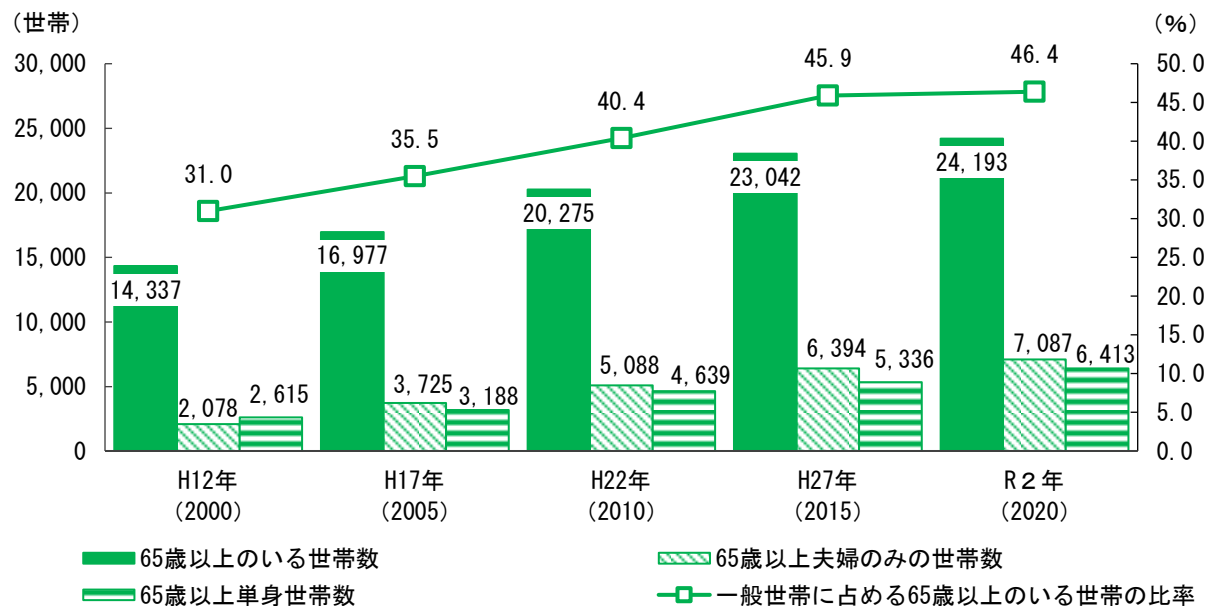


資料：住民基本台帳（令和7(2025)年まで）

(2) 高齢者世帯

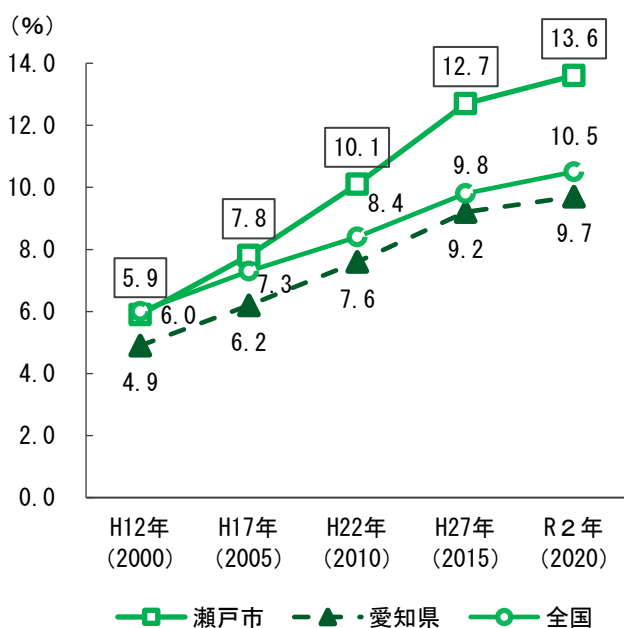
- 本市の高齢者のいる世帯、高齢者夫婦のみの世帯及び高齢者の単身世帯はいずれも増加が続いています。また、一般世帯に占める高齢者夫婦のみ世帯は国・県を大きく上回っており、高齢者単身世帯の割合も国・県より高くなっています。

■高齢者世帯の推移

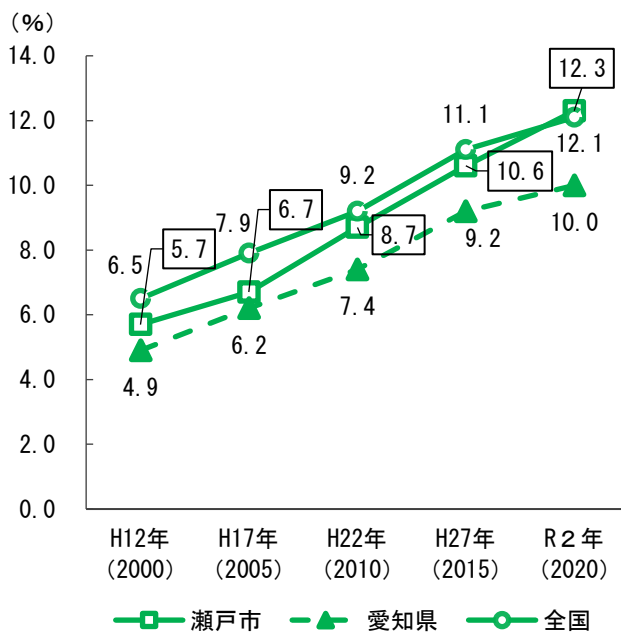


資料：国勢調査

■一般世帯における高齢者夫婦のみ世帯の割合



■一般世帯における高齢者単身世帯の割合



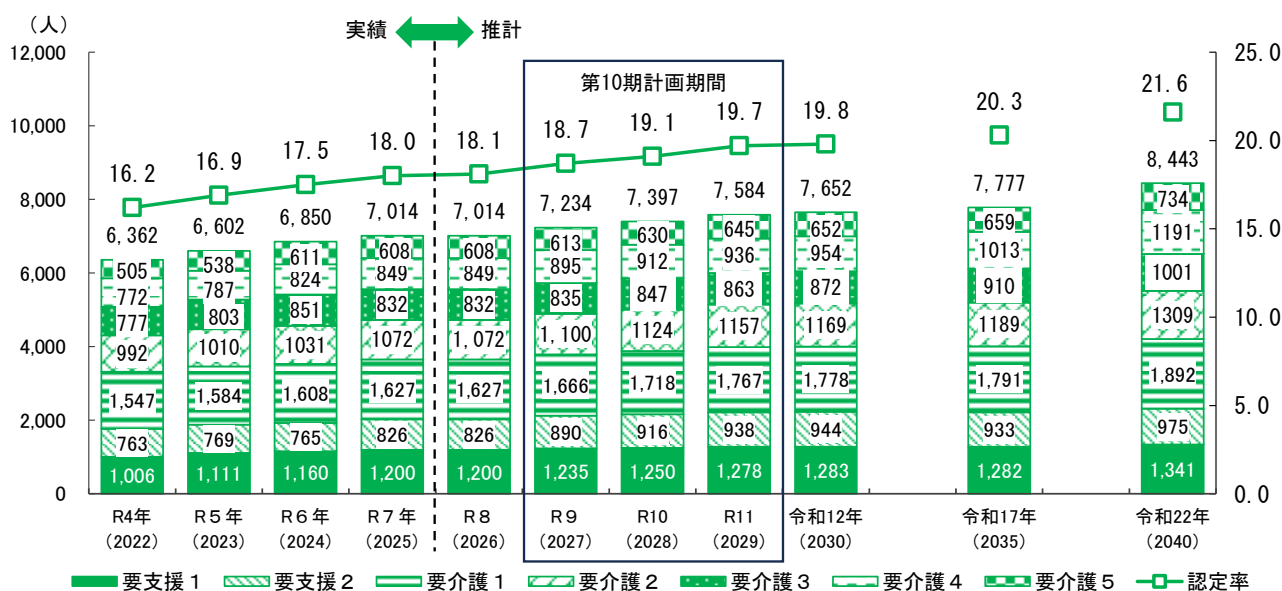
資料：国勢調査

2 要介護認定者数・認定率

(1) 認定者数の推移と将来展望

- 令和7(2025)年9月30日時点の本市の要介護（要支援）認定者数は7,014人で、増加が続いています。今後は75 歳以上人口の増加に伴い、令和17(2035)年ごろまでは認定者数が増加していく見込みです。
- 認定者数の増加に伴い、第1号被保険者（65歳以上の方）の認定率も上昇していくことが予想され、令和17(2035)年には20.0%を超える見込みとなっています。

■要介護度別認定者数の推移と将来推計（各年9月30日時点、令和6(2024)年以降は推計値）



※推計期間における認定率は65 歳以上人口に対する認定者数の割合で算出しています。

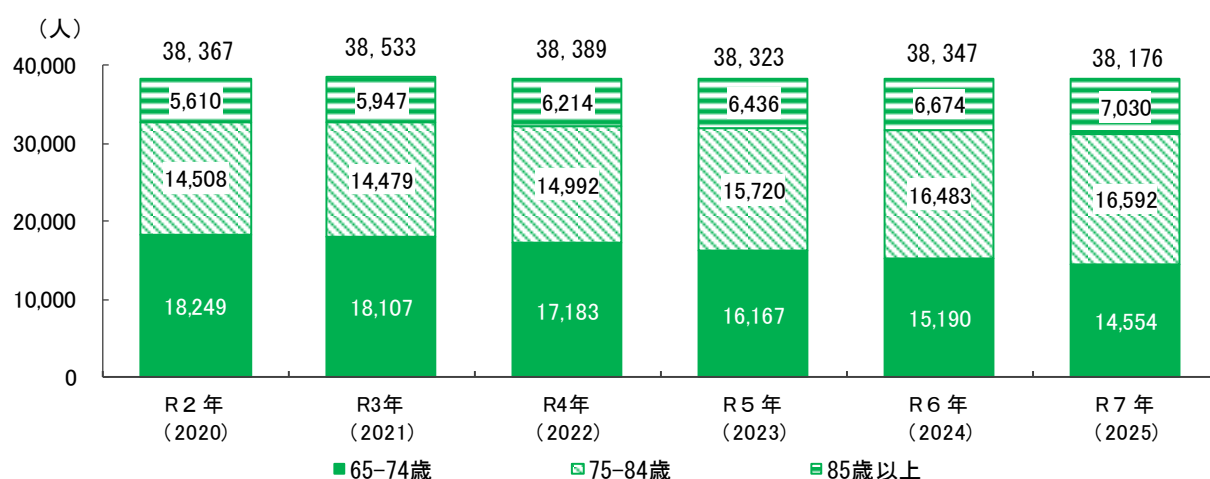
資料：介護保険事業状況報告（令和7(2025)年まで）

3 介護保険事業の状況

(1) 第1号被保険者数と認定者数

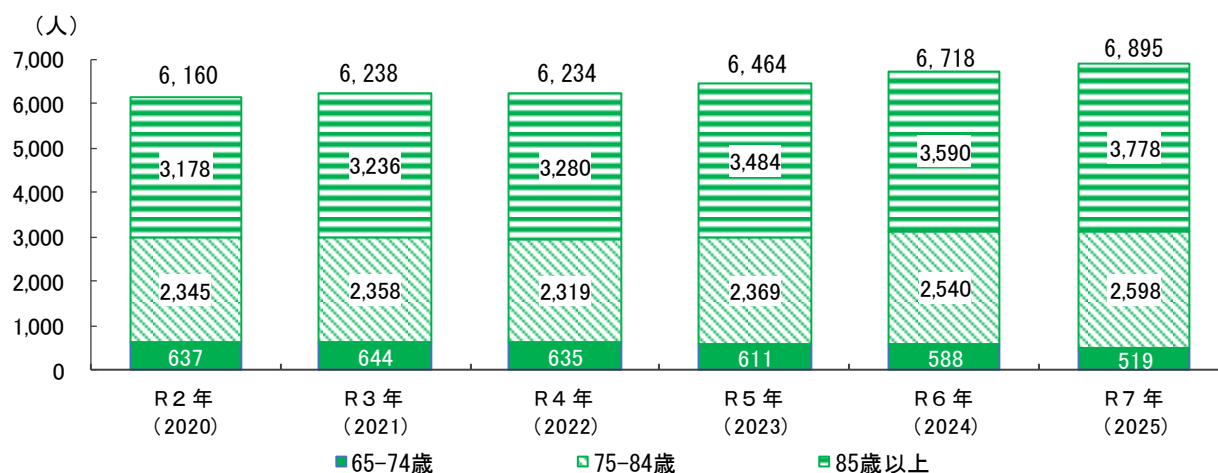
- 第1号被保険者数はほぼ横ばいで推移しており、近年では75～84歳、85歳以上が増加しています。団塊の世代が75歳以上になりつつあることから、65～74歳は減少傾向となっています。第1号被保険者の認定者数は、増加傾向にあり令和2(2024)年から令和7(2025)年にかけて735人の増加となっています。
- 年齢別の認定率は、高齢の世代ほど高く推移しています。認定率の高い85歳以上の人口が増加していることから、第1号被保険者全体の認定率は増加傾向となっています。なお認定率は国・県と比較すると低く推移しています。

■年齢別第1号被保険者数の推移（各年9月30日時点）



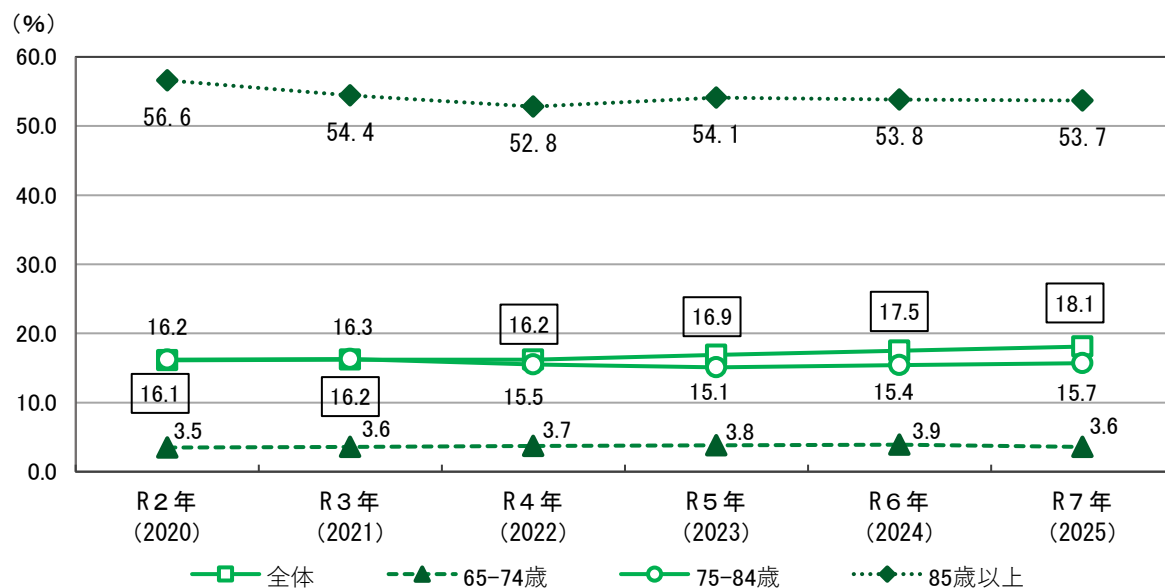
資料：介護保険事業状況報告

■年齢別要介護認定者数（第1号被保険者のみ）の推移（各年9月30日時点）



資料：介護保険事業状況報告

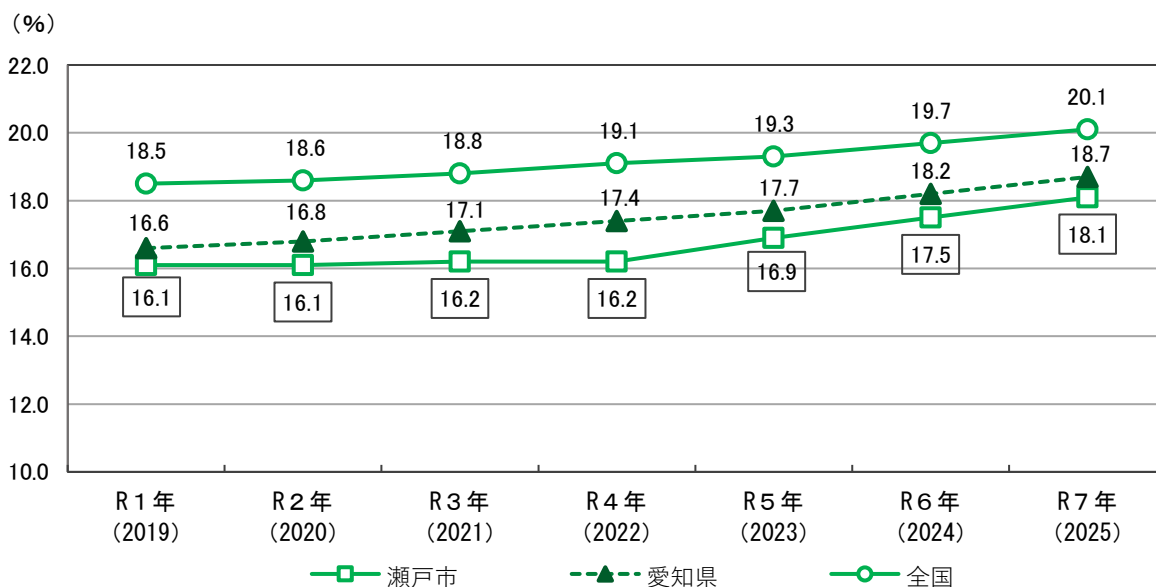
■年齢別認定率の推移（各年9月30日時点）



※認定率は各年齢区分別の第1号被保険者数に対する認定者数の割合で算出しています（以降同様）。

資料：介護保険事業状況報告

■第1号被保険者認定率の比較（各年9月30日時点）



※認定率は第1号被保険者数に対する認定者数の割合で算出しています。

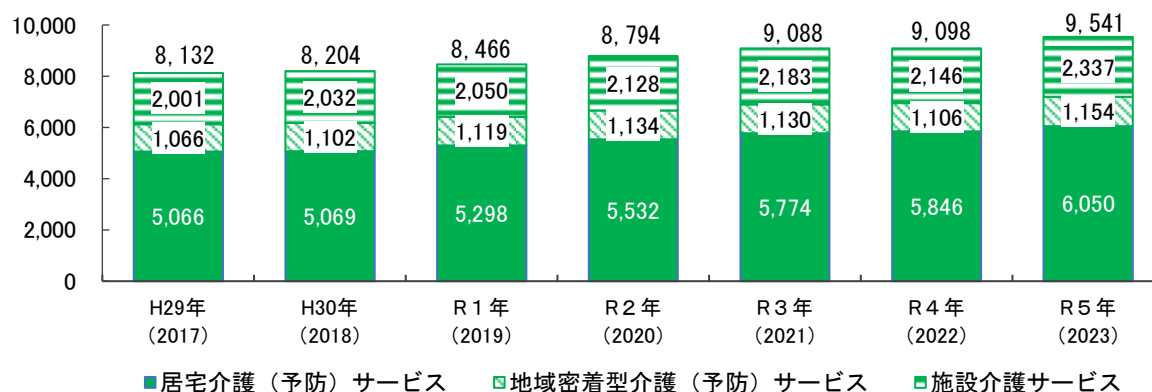
資料：介護保険事業状況報告

(2) サービス別給付費

- 介護保険サービス給付費については、全体では増加傾向となっています。
- サービス給付費のサービス別給付費の割合を国・県と比較すると、本市は施設介護サービス、地域密着型介護（予防）サービスが少なく、居宅介護（予防）サービスが多くなっています。近隣市町村で比較すると尾張旭市、長久手市に次いで居宅介護（予防）サービスが多くなっています。

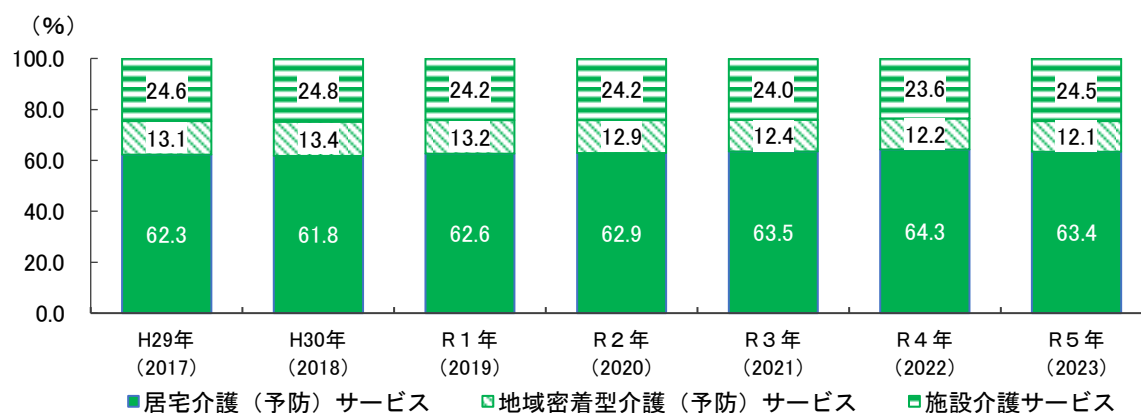
■介護保険サービス別給付費の推移

給付費(百万円)



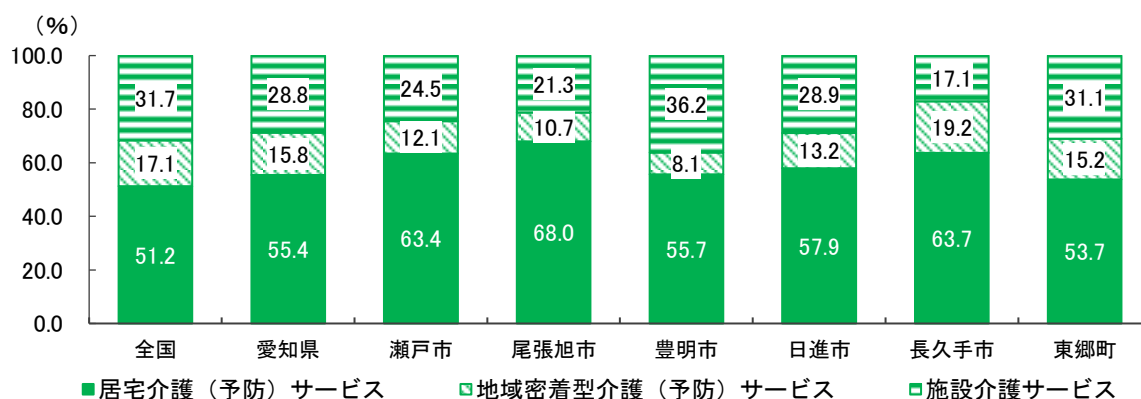
資料：介護保険事業状況報告

■サービス別給付費割合の推移



資料：介護保険事業状況報告

■サービス別給付費割合の比較（令和5（2023）年度）

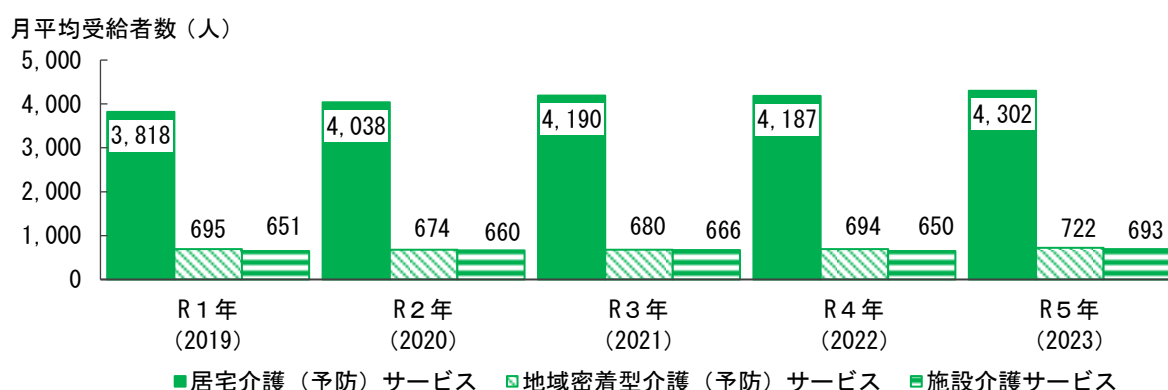


資料：介護保険事業状況

(3) サービス別受給者数

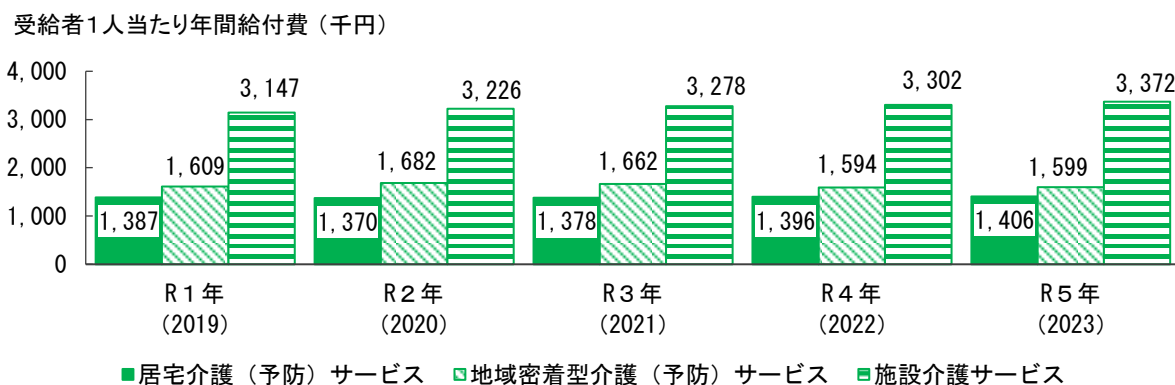
- サービス別の受給者数は、居宅介護（予防）サービスが増加傾向、地域密着型介護（予防）サービス、施設介護サービスはほぼ横ばいで推移しています。受給者一人当たり年間給付費は、居宅介護（予防）サービスが最も少なく、施設介護サービスが最も多くなっています。
- 受給者一人当たりの年間給付費を国・県と比較すると、本市は居宅介護（予防）サービスの給付費がやや高く、地域密着型介護（予防）サービスの給付費が低くなっています。また、近隣市町村と比べると、地域密着型介護（予防）サービスが最も低くなっています。

■サービス別受給者数の推移



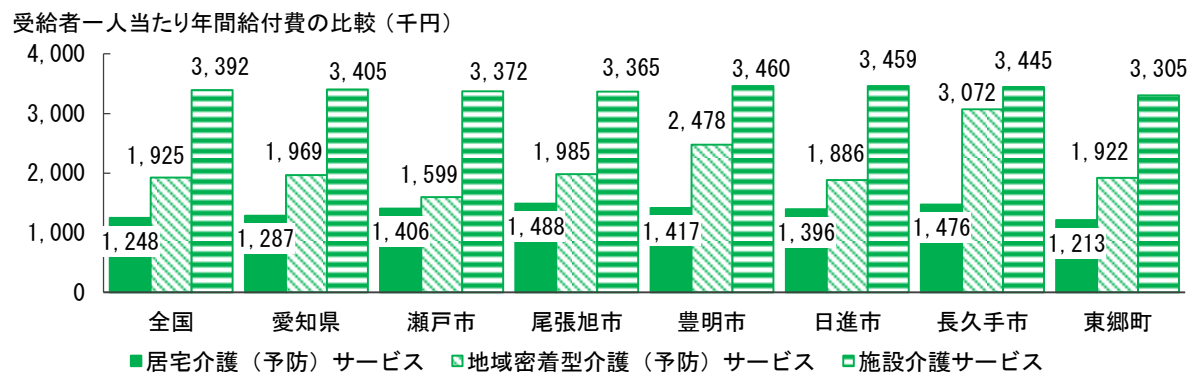
資料：介護保険事業状況報告

■受給者一人当たり年間給付費の推移



資料：介護保険事業状況報告

■受給者一人当たり年間給付費の比較（令和5（2023）年度）



資料：介護保険事業状況報告

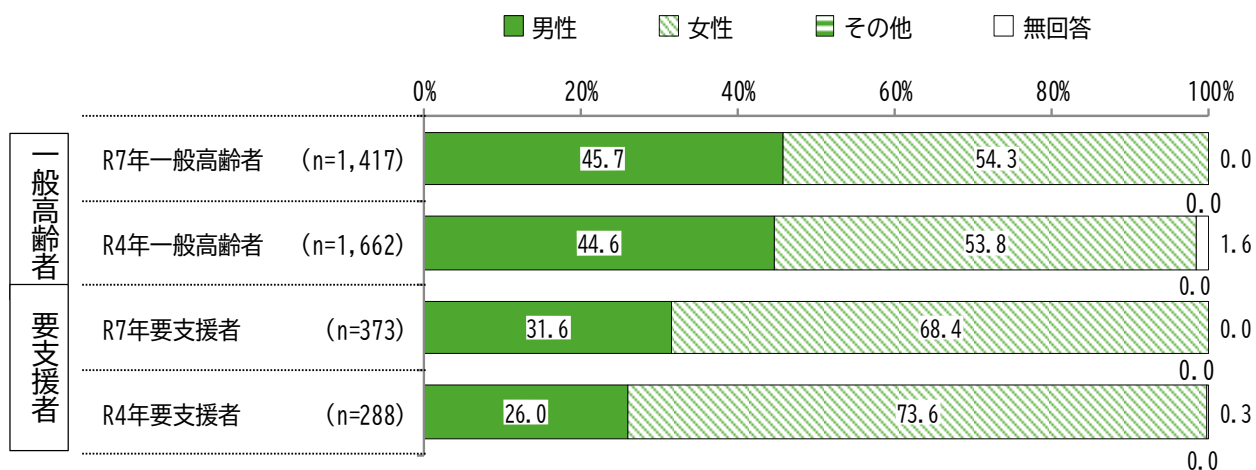
4 アンケート調査に基づく本市の課題

(1) 性別・年齢について

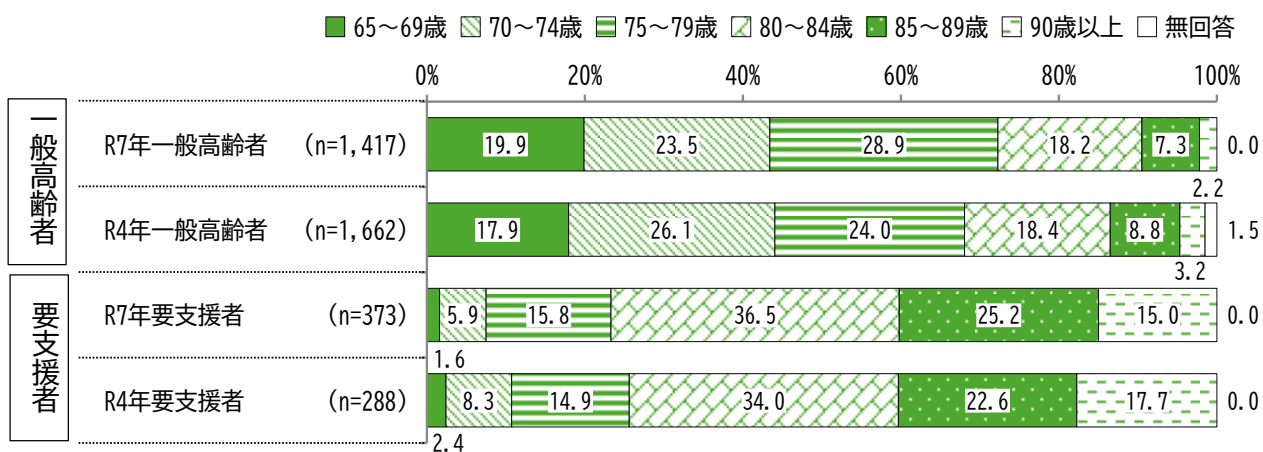
<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>

- 性別及び年齢について、一般高齢者・要支援者ともに大きな変化はありません。

①性別



②年齢（令和7年11月現在）

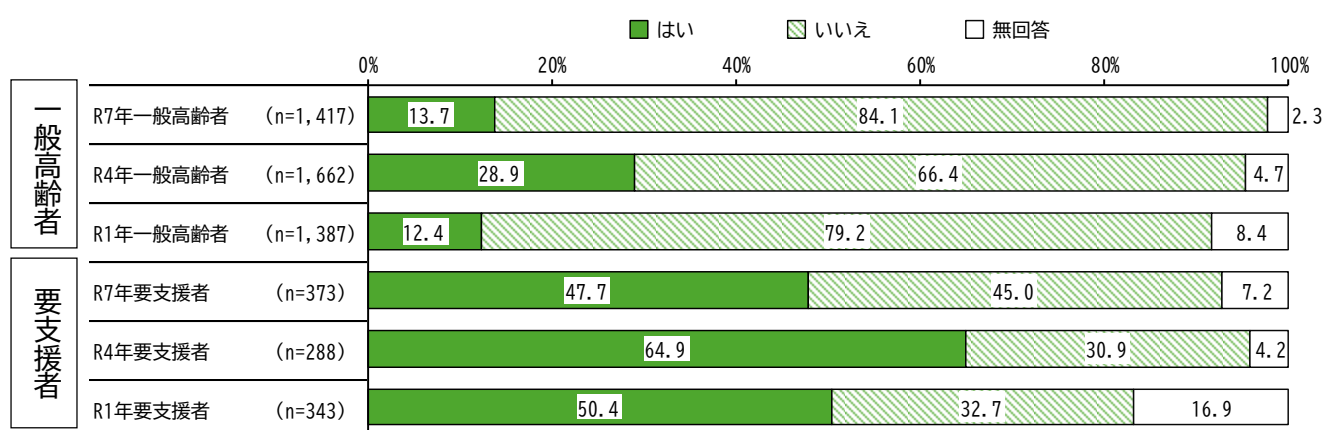


(2) 外出の状況について

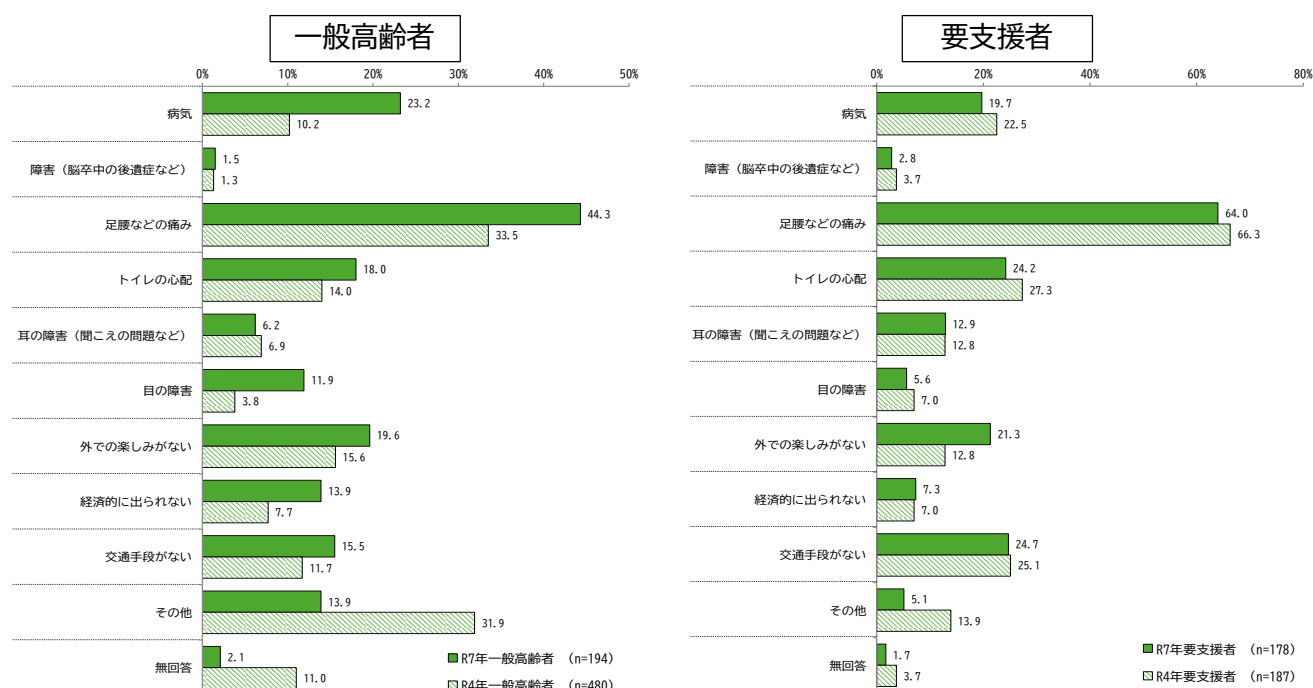
<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>

- 外出を控えているかについて、一般高齢者、要支援者ともに「はい」の割合が減少しています。
- 外出を控えているかについて、コロナウイルス感染症拡大前の令和元年の結果と比較すると一般高齢者は令和元年度では12.4%に対し、令和7年が13.7%、要支援者は50.4%に対し、47.7%となっています。
- 外出を控えている理由として、一般高齢者では「足腰などの痛み」「病気」「トイレの心配」「目の障害」など身体的な理由や、「外での楽しみがない」、「経済的に出られない」、「移動手段がない」の割合が増加しています。要支援者では「外での楽しみがない」の割合が増加しています。

①外出を控えていますか。

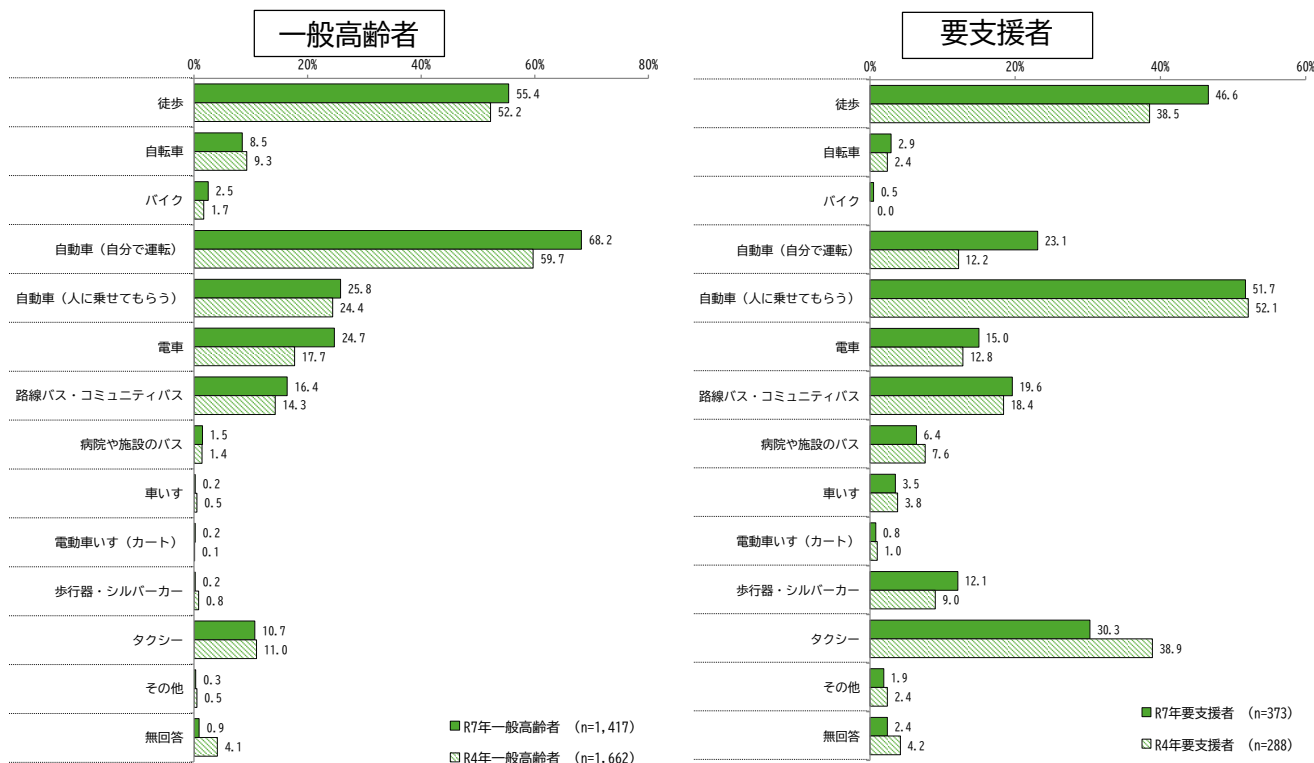


②（外出を控えているに「はい」と回答された方）外出を控えている理由



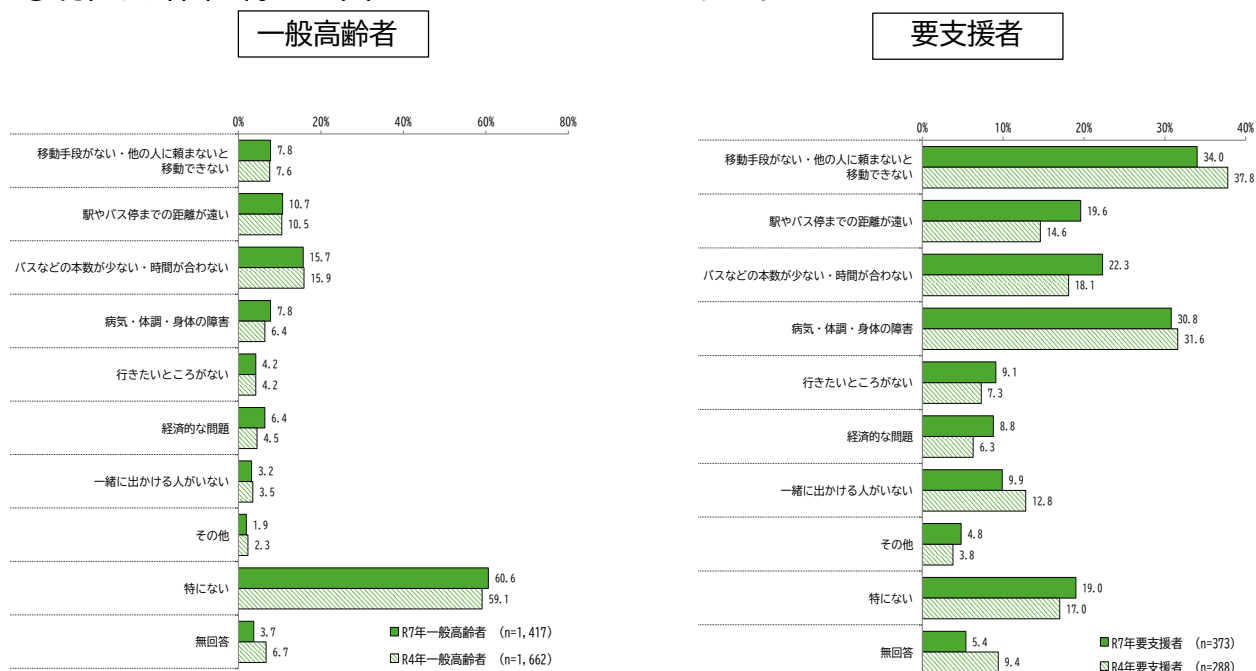
- 外出する際の移動手段として、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」「徒歩」が高く、要支援者では「自動車（人に乗せてもらう）」「徒歩」「タクシー」が高くなっています。

③外出する際の移動手段は何ですか。



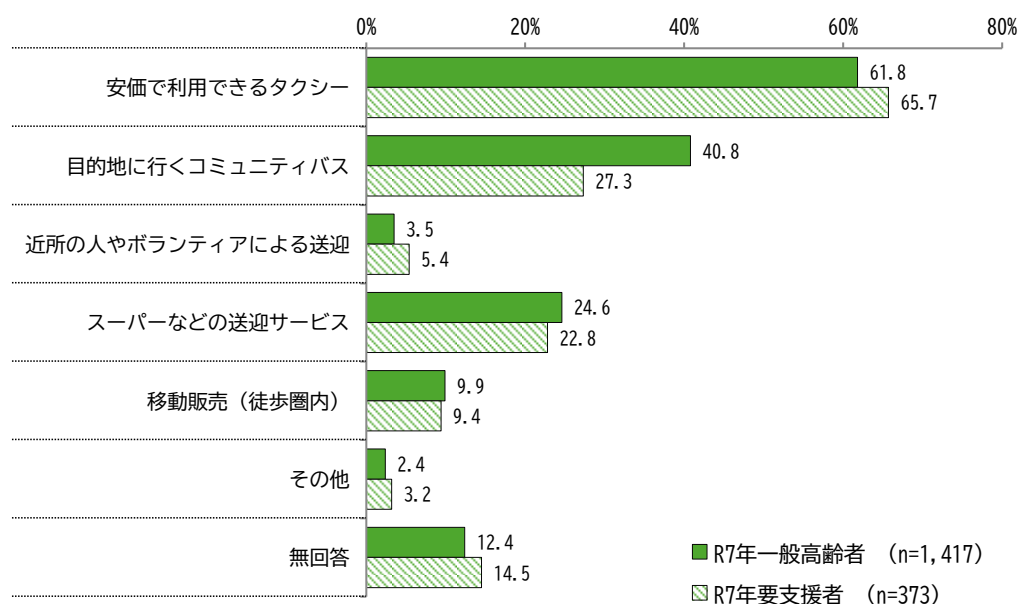
- 現在、外出に際して困っていることとして、一般高齢者では「特になし」が約6割と高く、要支援者では「移動手段がない・他の人に頼まないと移動できない」「病気・体調・身体の障害」が高くなっています。

④現在、外出に際して困っていることはありますか。



- 外出に困ったとき、どんな支援やサービスがあるとよいかについて、「安価で利用できるタクシー」「目的地に行くコミュニティバス」「スーパーなどの送迎サービス」が高くなっています。

⑤外出に困ったとき、どんな支援やサービスがあるとよいですか。



■調査のポイント・今後の取り組み

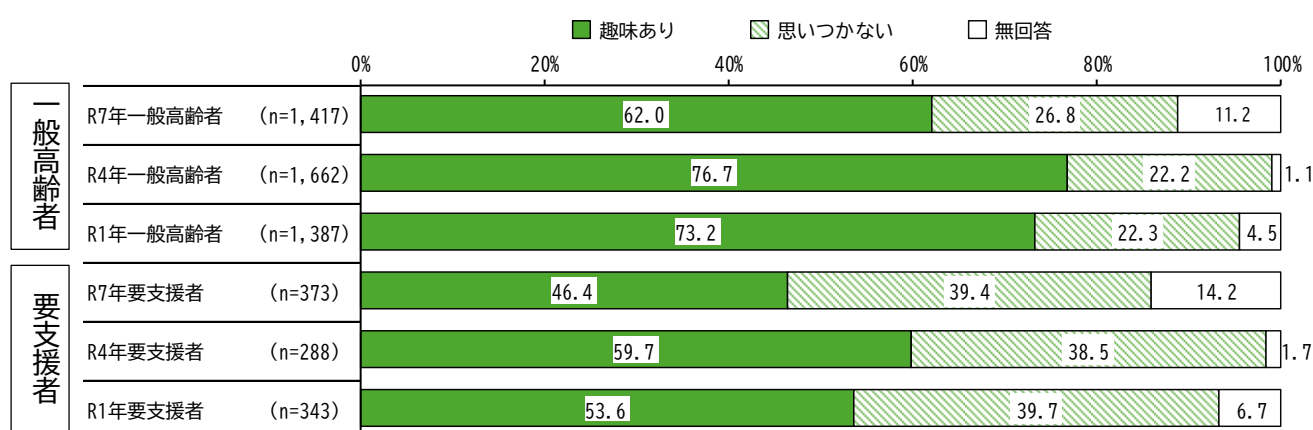
外出を控えているという割合は減少しており、コロナウイルス感染症拡大前の状態に戻ってきていることがうかがえます。外出を控えている理由としては、身体的な理由が多いものの、移動手段がないという回答もみられることから、高齢者の移動手段を確保する検討を、今後も継続していくことが求められています。

(3) 趣味・いきがいについて

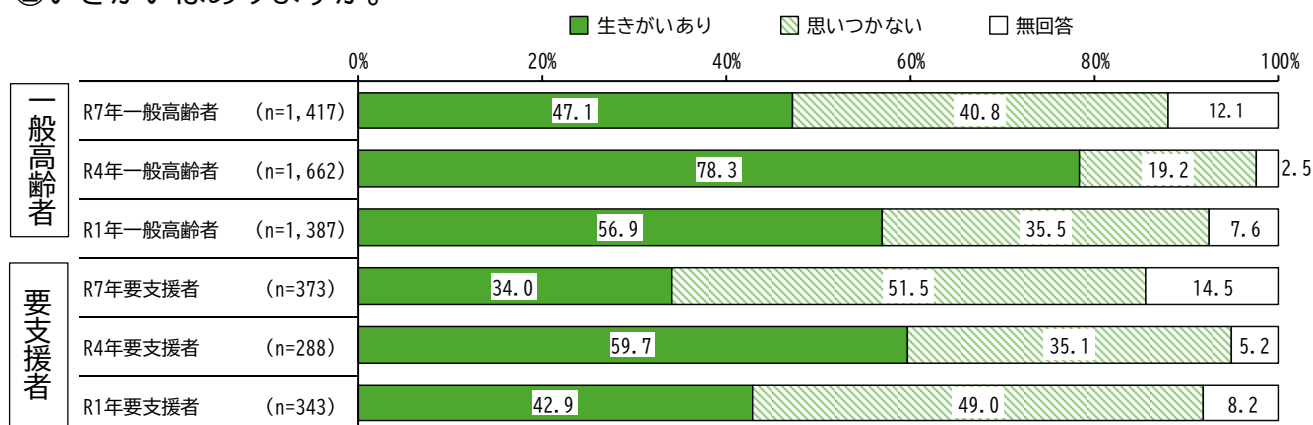
<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>

- 趣味について、前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援者ともに、「趣味あり」が10%以上減少しています。
- いきがいについて、前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援者ともに、「いきがいあり」が大きく減少しています。
- 一般高齢者において、年齢別にみると、85歳以上で「いきがいあり」を「思いつかない」、「これまでやってきたことや興味のあったことの多くを、最近やめた」という回答は、85歳以上において割合が高くなっています。
- 幸せについて、一般高齢者、要支援者ともに、「5点[ふつう]」が約40%と高くなっています。

①趣味はありますか。



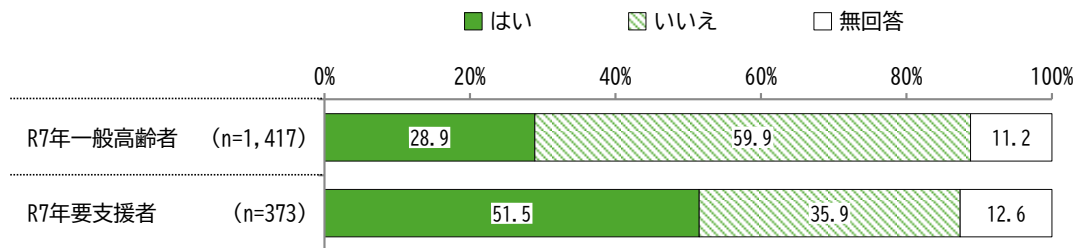
②いきがいはありますか。



年齢別【一般高齢者】

		単位：%			
		全体	生きがいあり	思いつかない	無回答
年齢別	65～69歳	282	55.3	37.6	7.1
	70～74歳	333	50.2	38.4	11.4
	75～79歳	409	43.5	42.8	13.7
	80～84歳	258	45.3	41.9	12.8
	85～89歳	104	34.6	45.2	20.2
	90歳以上	31	41.9	45.2	12.9

③これまでやってきたことや興味のあったことの多くを、最近やめてしまいましたか。

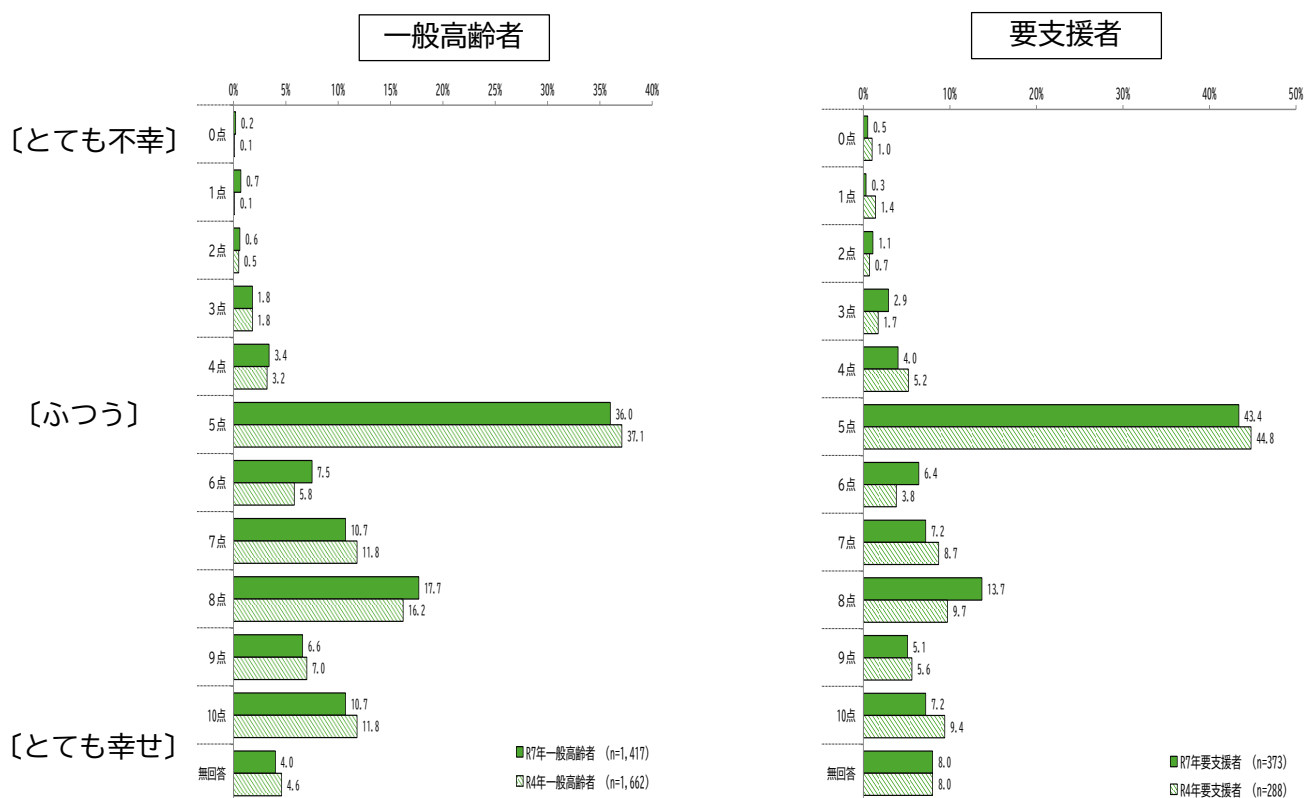


年齢別【一般高齢者】

単位：%

		全体	はい	いいえ	無回答
年齢別	65～69歳	282	19.5	73.0	7.4
	70～74歳	333	22.8	68.5	8.7
	75～79歳	409	26.9	59.4	13.7
	80～84歳	258	40.7	48.1	11.2
	85～89歳	104	49.0	35.6	15.4
	90歳以上	31	41.9	35.5	22.6

④あなたは、現在どの程度幸せですか。



■調査のポイント・今後の取り組み

趣味及びいきがいは、高齢者における生活の質（QOL）の向上のため、そしてフレイル予防のためにも重要な要素となります。85歳以上において、「いきがいを思いつかない」、「これまでやってきたことや興味のあったことの多くを最近やめた」という回答の割合が高いことから、85歳以上に焦点を当てて、趣味及びいきがいづくりの支援を検討していくことが求められています。

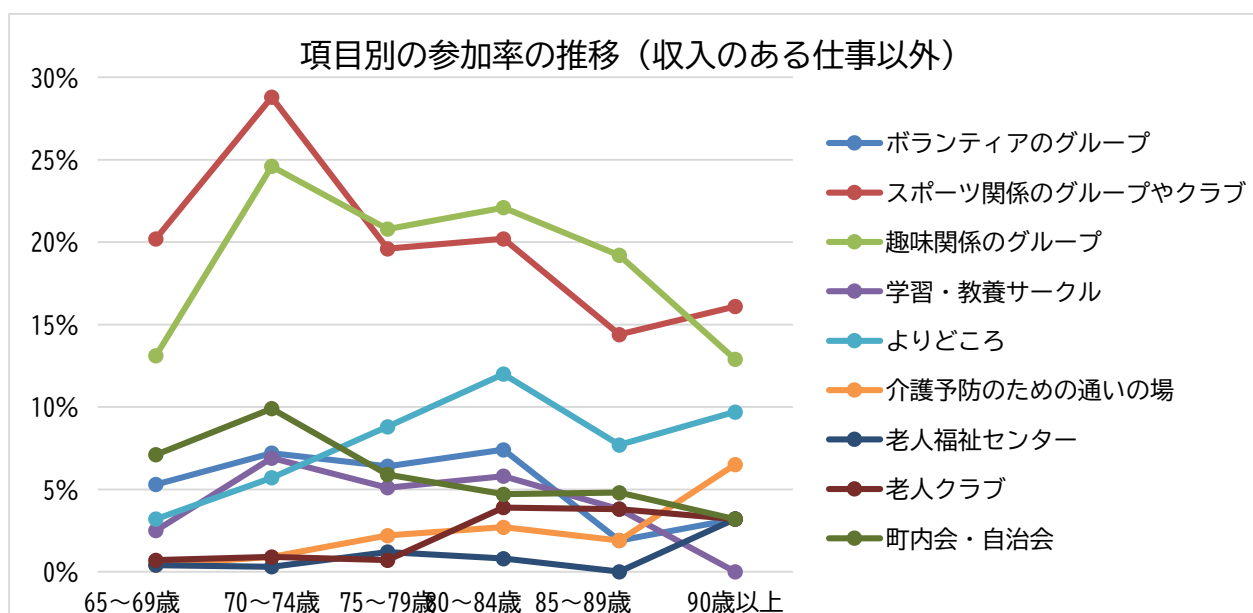
（４）高齢者の地域での会・グループ・集いの場の参加状況

<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>

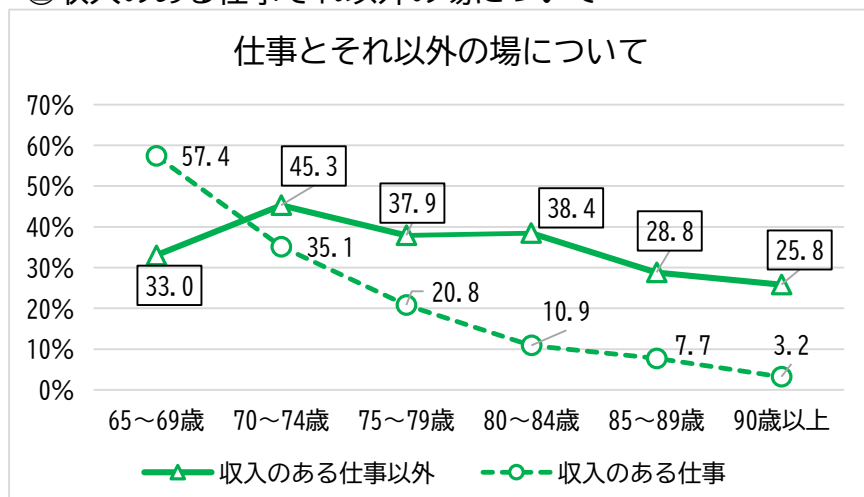
- 高齢者の地域での会・グループ・集いの場の参加状況をまとめています。参加率は、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」の回答率を合算しています。
- 年代別に参加率をみると、「スポーツ」と「趣味関係」が年代を問わず高くなっています。また、高齢者の集いの場である「よりどころ」は80～84歳で10%を超えています。介護予防のための通いの場は90歳以上で5%を超え高くなっています。
- 収入のある仕事の参加率は、年齢を重ねるにつれて減少しています。経年変化でみると、収入のある仕事の参加率は年々高くなっています。
- 収入のある仕事以外（地域の会やグループ、高齢者の集いの場を合算したもの）の参加率は、70～74歳をピークに、80～84歳から90歳以上にかけて減少しています。

【一般高齢者】

①地域の会・グループ・集いの場（収入のある仕事を除く）

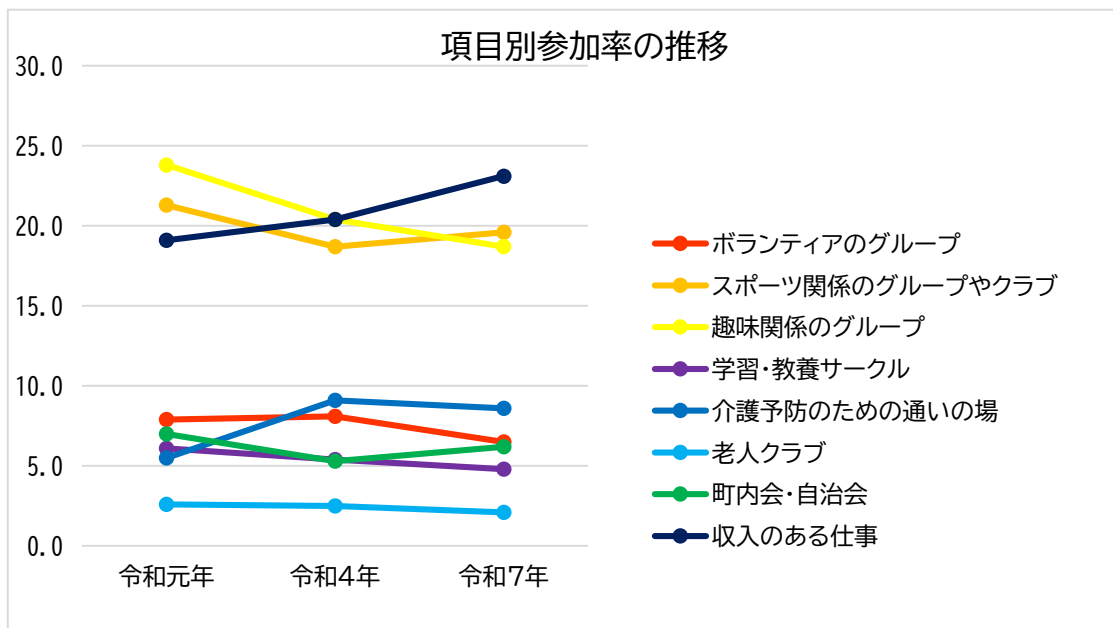


②収入のある仕事それ以外の場について

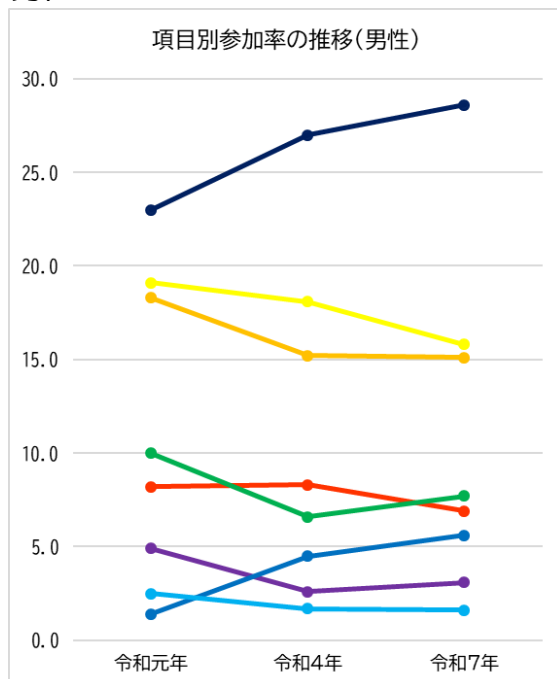


③地域の会・グループ・集いの場経年変化

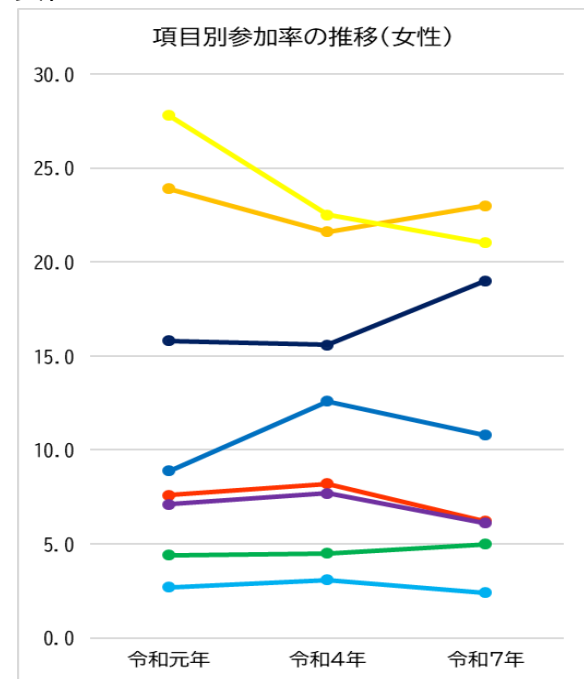
全体



男性



女性



■調査のポイント・今後の取り組み

収入のある仕事以外の場の参加率について、70～74歳をピークに年齢を重ねると参加率が減少する傾向がみられます。年齢を重ねても、地域と関わりを持ち、社会参加できるような取り組みが求められています。

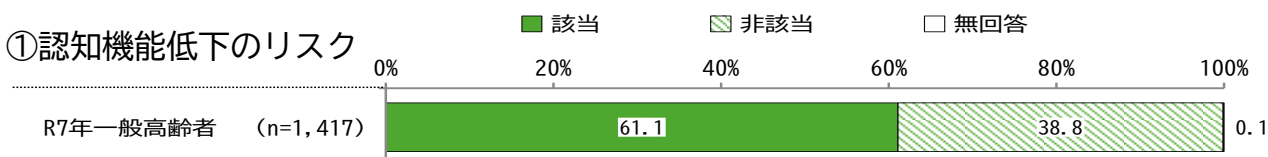
経年変化では、収入のある仕事への参加率が年々高くなっており、経済的な理由だけでなく、仕事をすることで高齢者が社会参加ややりがいなどを求めている可能性がうかがえます。

(5) 認知機能低下の状況

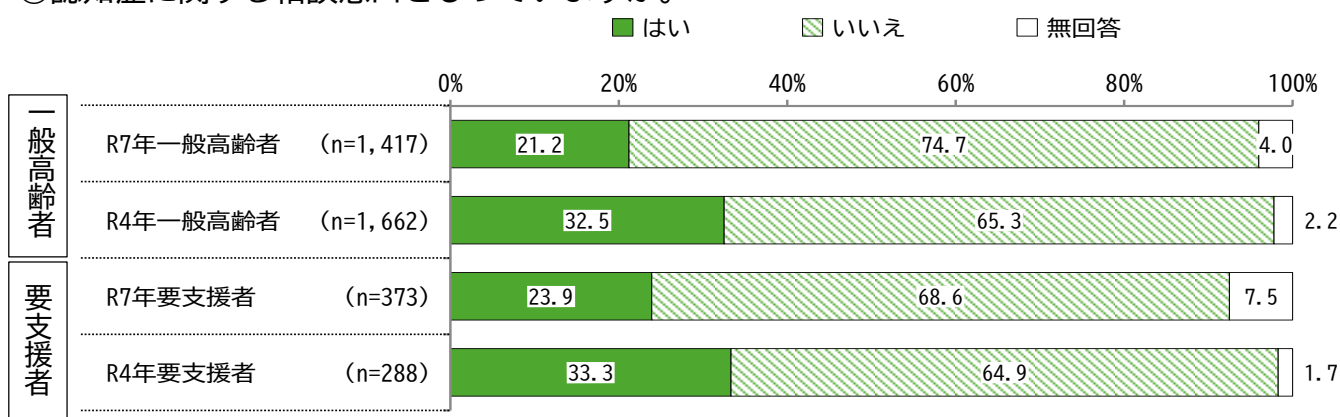
<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>

- 愛知県と国立長寿医療研究センターが共同で作成した認知機能の低下をチェックするリストを使用して実施したところ、認知機能の低下の該当者が61.1%となっています。
- 認知症の相談窓口の認知度について前回調査と比較すると、一般高齢者では、知っている割合が11.3%減少しています。

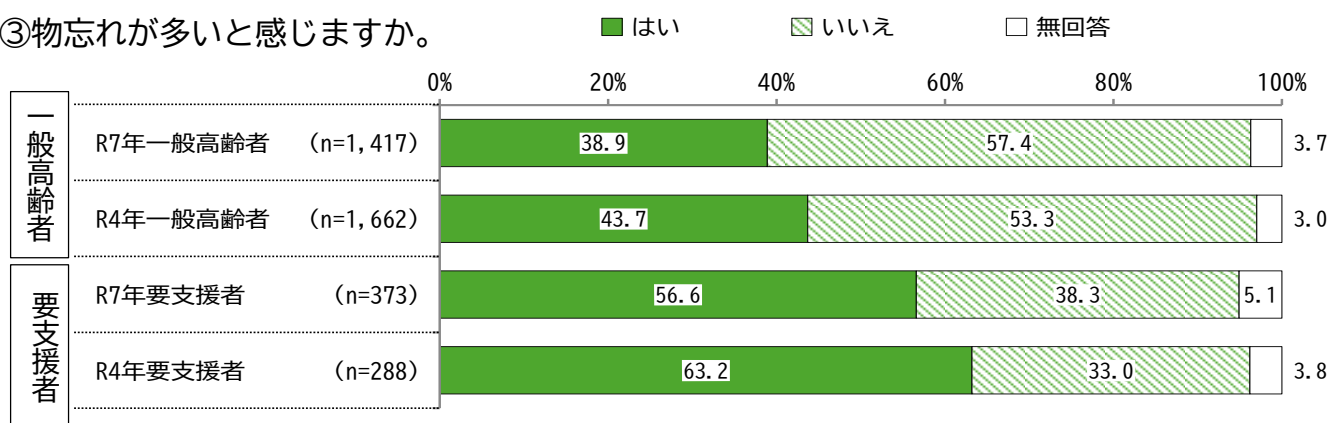
①認知機能低下のリスク



②認知症に関する相談窓口をしっていますか。



③物忘れが多いと感じますか。



■調査のポイント・今後の取り組み

認知機能低下の可能性がある高齢者の増加が見込まれる中、引き続き認知症の予防に資する取り組みの必要性がうかがえます。

認知症に関する相談窓口について、さらに周知するとともに、高齢者自身だけでなく、家族や周囲の人が認知症について理解し、適切な対応をとることができる取り組みを今後も継続していくことが求められています。

(7) 在宅要介護認定者の状況について

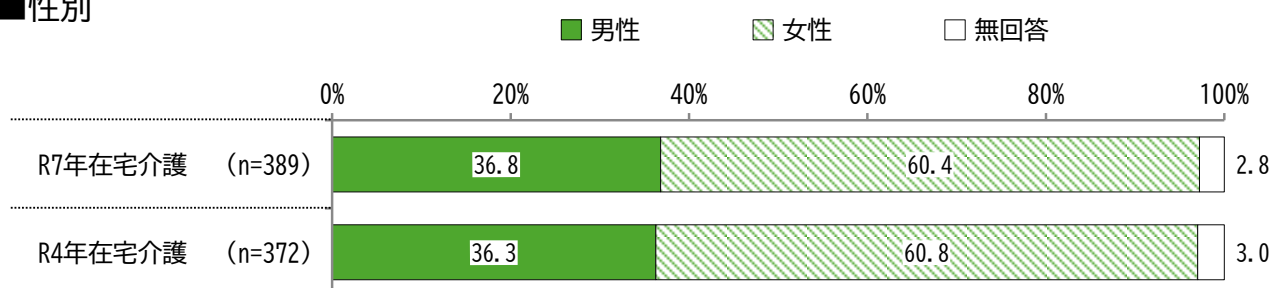
前回は聞き取りで調査を行いました、今回は郵送で調査を行っています。

<在宅介護実態調査>

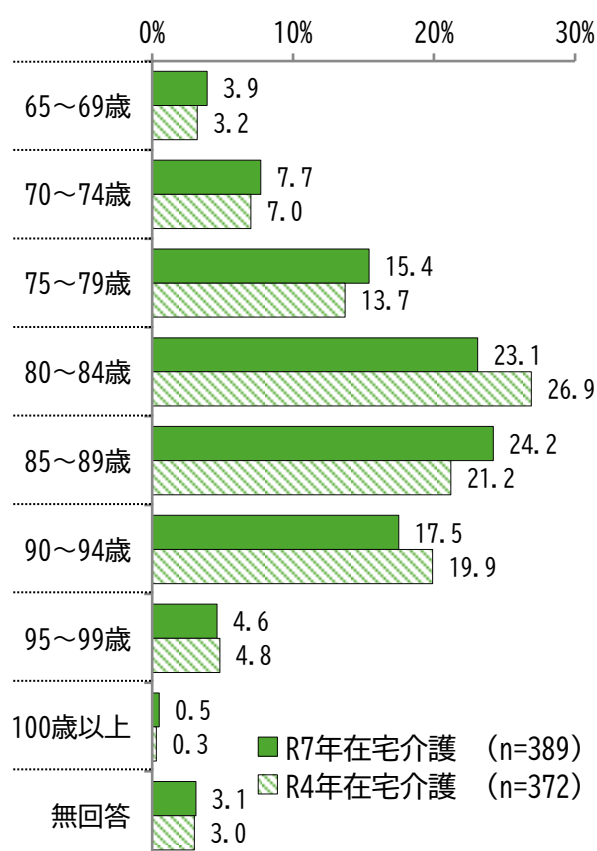
- 性別及び年齢について前回調査と比較すると、大きな変化はありません。
- 要介護度は要介護1が38.0%となっており、要介護度が上がるとともに減少しています。

①属性

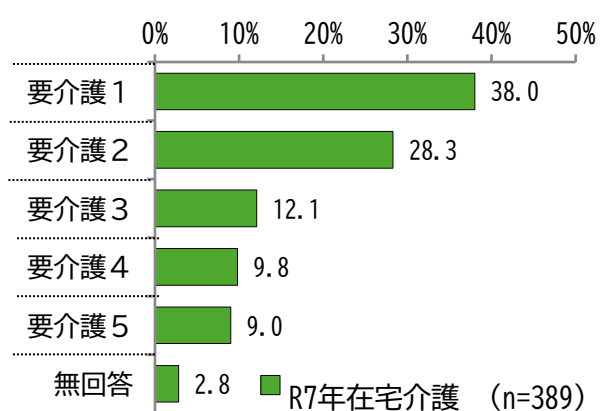
■性別



■年齢

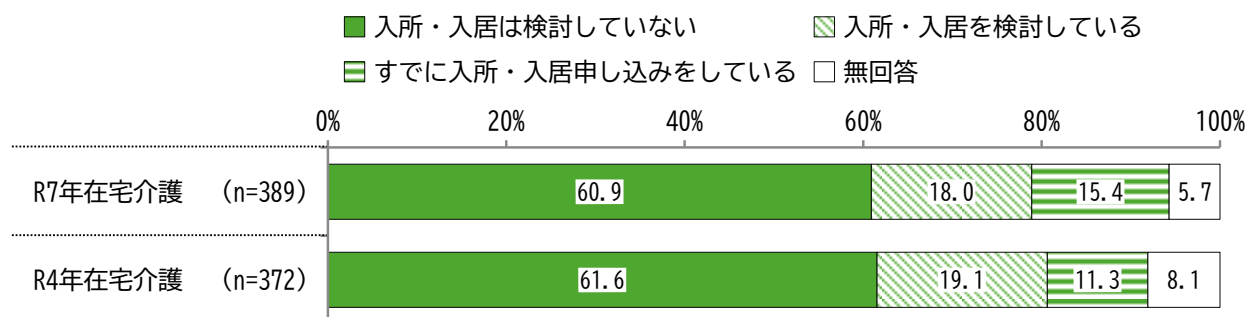


■要介護度



- 在宅で生活する要介護認定者について、「入所・入居は検討していない」がやや低くなっています。
- 訪問診療の利用状況について、「利用している」が前回調査より高くなっています。

②現時点での、施設などへの入所・入居の検討状況について、ご回答ください。

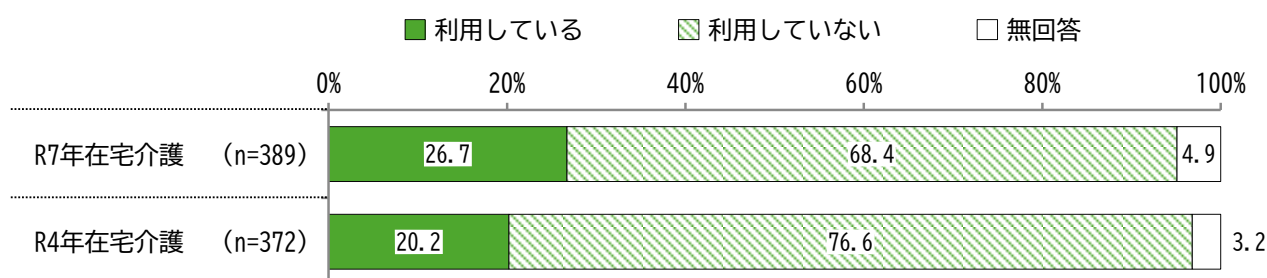


要介護度別

単位：%

	全体	入所・入居を検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている	無回答
要介護1	148	75.0	16.9	5.4	2.7
要介護2	110	64.5	18.2	12.7	4.5
要介護3	47	34.0	25.5	27.7	12.8
要介護4	38	28.9	15.8	44.7	10.5
要介護5	35	57.1	14.3	20.0	8.6

②ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか。



※訪問歯科診療や居宅療養管理指導などは含みません。

- 訪問介護（ホームヘルプ）の詳細をみると、自宅で「利用なし」（85.0％）の割合が高くなっています。また、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅で「15回以上」（77.1％、75.0％）の割合が高くなっており、利用者数が多くなっています。

③介護保険サービスの利用状況

単位：％

項目	14回以下	15回以上	利用なし	データなし
訪問介護（ホームヘルプ）（n=389）	9.3	13.6	74.3	2.8
訪問入浴介護（n=389）	2.6	0.0	94.6	2.8
訪問看護（n=389）	14.7	0.5	82.0	2.8
訪問リハビリテーション（n=389）	7.5	0.5	89.2	2.8
居宅療養管理指導（n=389）	5.4	0.0	91.8	2.8
通所介護（デイサービス）（n=389）	36.2	9.8	51.2	2.8
通所リハビリテーション（n=389）	6.9	1.3	88.9	2.8
短期入所生活介護（ショートステイ）（n=389）	7.5	0.8	88.9	2.8
短期入所療養介護（n=389）	0.3	0.0	96.9	2.8
小規模多機能型居宅介護（n=389）	0.0	0.5	96.7	2.8
看護小規模多機能型居宅介護（n=389）	0.0	0.3	96.9	2.8

単位：％

	自宅				有料老人ホーム				サービス付き高齢者向け住宅			
	全体	14回以下	15回以上	利用なし	全体	14回以下	15回以上	利用なし	全体	14回以下	15回以上	利用なし
訪問介護（ホームヘルプ）	334	9.0	6.0	85.0	35	8.6	77.1	14.3	8	25.0	75.0	0.0

■調査のポイント・今後の取り組み

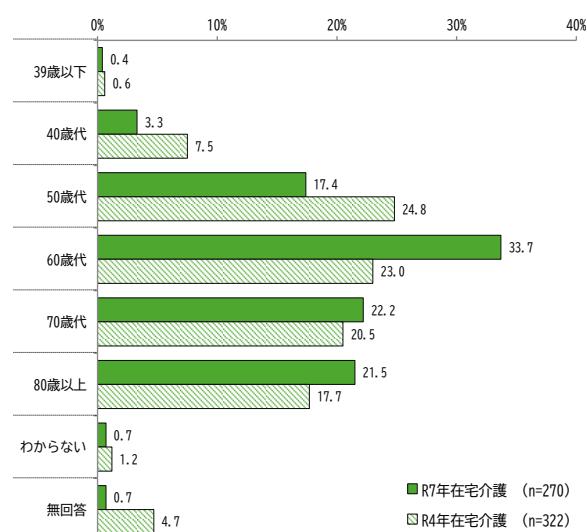
訪問診療などのサービスを利用しながら、在宅で生活を継続している要介護者が増加しており、介護人材の不足が課題となる中、要介護者が必要なサービスを過不足なく受給できるよう、介護給付の適正化の取り組みについて、今後も継続していくことが求められています。

(8) 在宅要介護認定者の介護者について

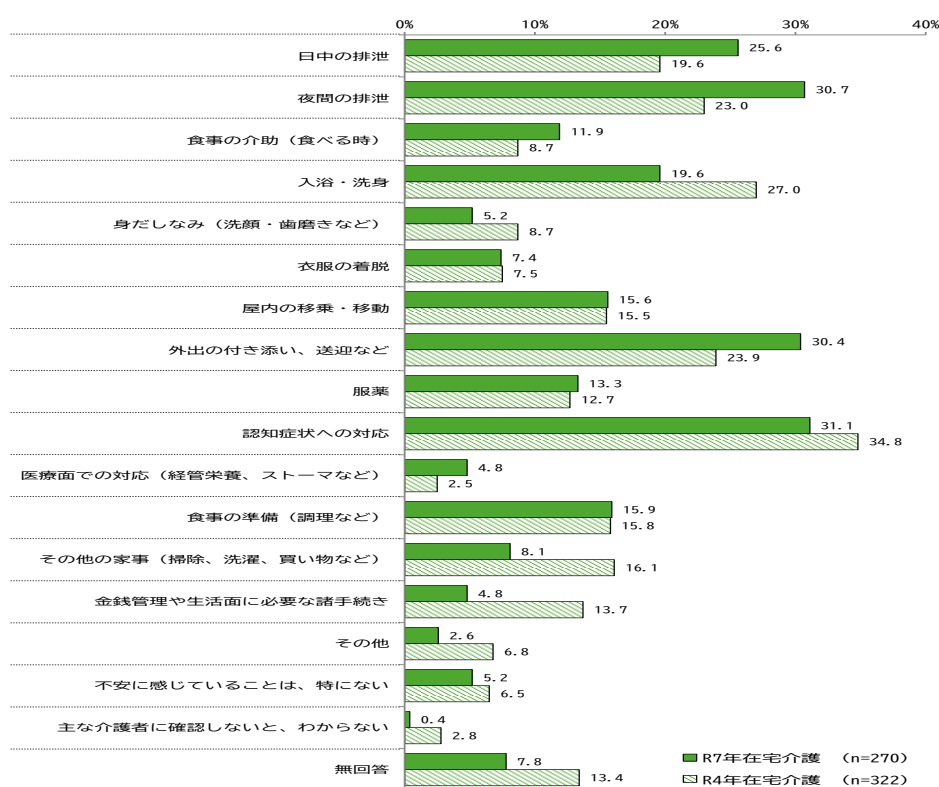
<在宅介護実態調査>

- 主な介護者の年齢について前回調査より全体的に年齢が高くなっています。
- 主な介護者が不安に感じる介護について、「日中の排泄」「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎など」が前回調査より高くなっています。
- 要介護度別にみると、要介護1で「外出の付き添い、送迎など」「認知症状への対応」、要介護2、要介護4で「夜間の排泄」、要介護3、要介護5で「日中の排泄」の割合が高くなっています。

①主な介護者の方の年齢



②主な介護者の方が不安に感じる介護



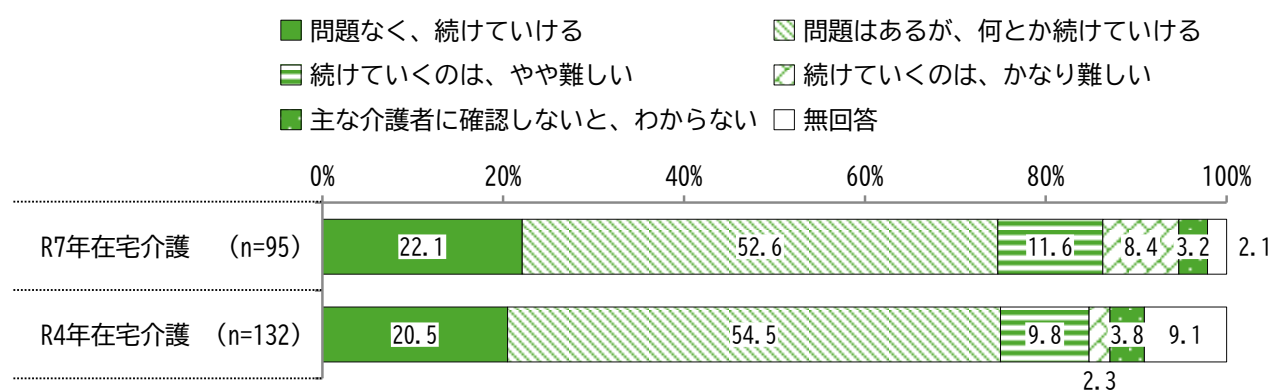
要介護度別

単位：％

	全体	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨きなど）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎など	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマなど）	食事の準備（調理など）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）	金銭管理や生活に必要な諸手続き	その他	不安に感じていること	主な介護者に確認しないこと	無回答
要介護1	103	15.5	19.4	9.7	19.4	3.9	5.8	10.7	37.9	16.5	37.9	5.8	22.3	13.6	2.9	1.0	7.8	0.0	6.8
要介護2	82	20.7	40.2	8.5	23.2	4.9	8.5	15.9	34.1	14.6	29.3	3.7	19.5	7.3	7.3	6.1	2.4	0.0	4.9
要介護3	32	37.5	31.3	15.6	18.8	3.1	3.1	21.9	12.5	12.5	34.4	6.3	6.3	3.1	3.1	0.0	3.1	0.0	18.8
要介護4	21	38.1	47.6	9.5	14.3	14.3	14.3	23.8	14.3	14.3	23.8	9.5	9.5	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
要介護5	24	45.8	25.0	25.0	12.5	8.3	8.3	16.7	16.7	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	8.3	4.2	12.5	4.2	4.2

- 主な介護者が働きながら介護を続けられるかについて、「続けていくのは、やや難しい」及び「続けていくのはかなり難しい」は、20.0％となっており、前回調査より7.9％増加しています。

③（「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方）主な介護者には今後の働きながら介護を続けていけそうか。



調査のポイント・今後の取り組み

介護者の高齢化の現状や、家族等介護者の就労継続のため、要介護者になっても在宅生活が継続できるよう、在宅での生活を維持する支援を今後も継続していくことが求められています。

(9) 介護人材の確保について

- 介護職員の採用者数について、訪問系、施設系、通所系の全サービスの職員の合計は351人（常勤職員141人、非常勤職員210人）、離職者数については、297人（常勤職員124人、非常勤職員173人）となっています。市全体では54人増加し昨年比103.1%となっています。要介護認定者の増加102.3%を上回る形で採用ができている結果となっています。
- 常勤職員の採用者数について、訪問系と通所系は0人という事業所が最も多く、施設系は1～4人が最も多くなっています。
- 常勤職員の離職者数について、訪問系と通所系は0人という事業所が最も多く、施設系は1～4人が最も多くなっています。

<介護人材実態調査>

- ①過去1年間（令和年6月10月1日～令和7年9月30日）の介護職員の採用者数と離職者数を、常勤・非常勤別にご記入ください。外国人人材も含めてご回答ください。

採用・離職者数

		回答事業 数（件）	採用者 数合計（人）	採用者の人数別割合（％）					離職者 数合計（人）	離職者の人数別割合（％）		
				0人	1～4人	5～9人	10～14人	15人以上		0人	1～4人	5～9人
常勤職員	訪問系	35	34	48.6	37.1	2.9	0.0	0.0	29	54.3	34.3	5.7
	施設系	57	76	36.8	57.9	3.5	0.0	0.0	72	40.4	47.4	7.0
	通所系	44	31	47.7	43.2	0.0	0.0	0.0	23	50.0	40.9	0.0
非常勤職員	訪問系	35	75	31.4	40.0	8.6	2.9	2.9	64	20.0	60.0	11.4
	施設系	57	96	28.1	61.4	8.8	0.0	0.0	82	28.1	64.9	3.5
	通所系	44	39	43.2	47.7	0.0	0.0	0.0	27	56.8	34.1	0.0

全サービス系（訪問系、施設系、通所系）の採用者数の合計は351人（常勤職員141人、非常勤職員210人）

全サービス系（訪問系、施設系、通所系）の離職者数の合計は297人（常勤職員124人、非常勤職員173人）

全サービス系（訪問系、施設系、通所系）の職員は54人増加（採用者351人－離職者297人）

介護職員数の変化

サービス系統 (該当事業所数)	職員総数			採用者数			離職者数			昨年比		
	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計
全サービス系統 (n=146)	884人	925人	1809人	141人	210人	351人	124人	173人	297人	102.0%	104.2%	103.1%
訪問系 (n=40)	232人	329人	561人	34人	75人	109人	29人	64人	93人	102.2%	103.5%	102.9%
通所系 (n=45)	172人	193人	365人	31人	39人	70人	23人	27人	50人	104.9%	106.6%	105.8%
施設・居住系 (n=61)	480人	403人	883人	76人	96人	172人	72人	82人	154人	100.8%	103.6%	102.1%

全サービス系（訪問系、施設系、通所系）の職員における前年比 103.1%

（参考）

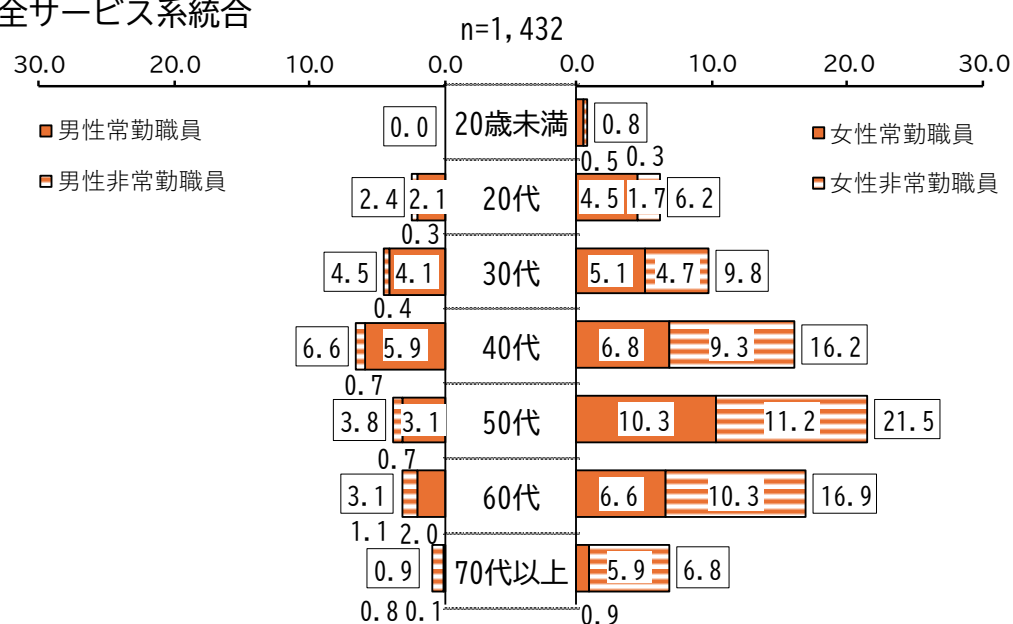
要介護者数の増加164人（令和7年度7,14人、令和6年度6,850人）

要介護者数の前年比 102.3%

②「訪問系」あなたの雇用形態、性別、年齢、過去1週間の勤務時間等について、ご回答ください。「施設・通所系」貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください。

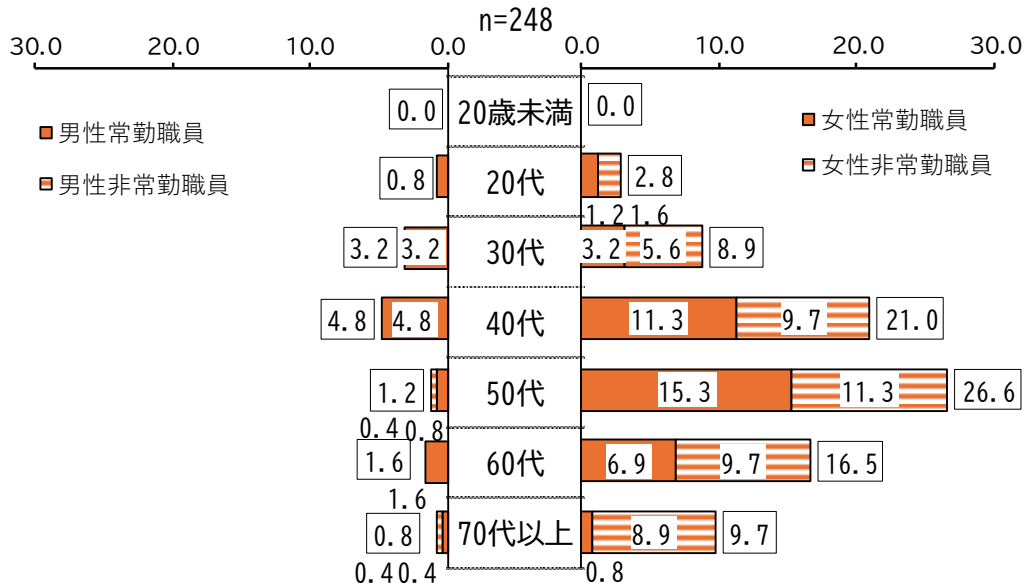
- 訪問系の職員の性別は、女性が85.5%となっています。年齢は、50代、40代、60代の順で多く、40～60代で71.7%を占めています。
- 通所系の職員の性別は、女性が82.5%となっています。年齢は、50代、40代、60代の順で多く、40～60代で71.8%を占めています。
- 施設系の職員の性別は、女性が74.1%となっています。年齢は、50代、60代、40代の順で多く、40～60代で65.4%を占めています。

■性別・年齢別の雇用形態 全サービス系統合

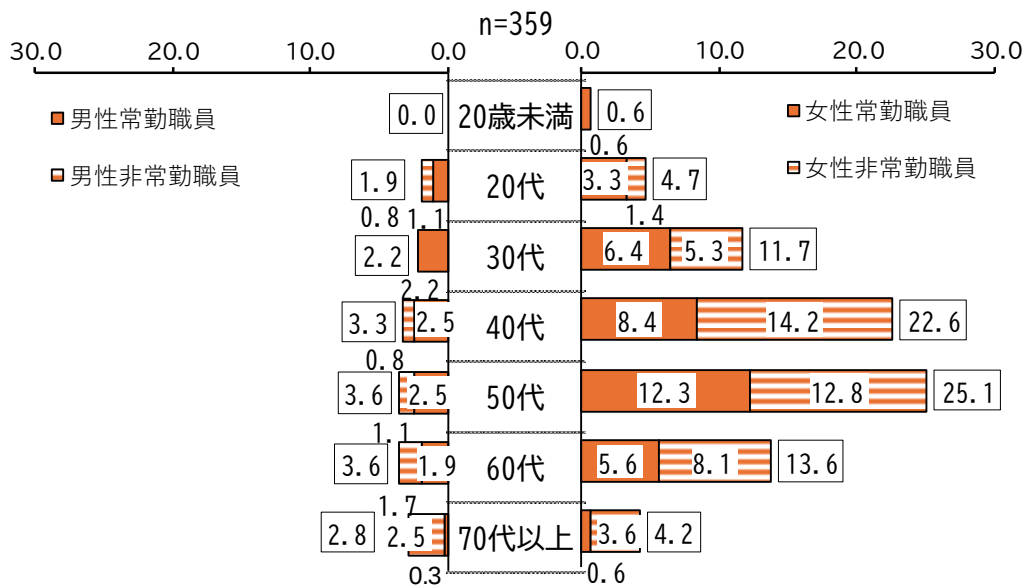


※白抜き四角口は合計

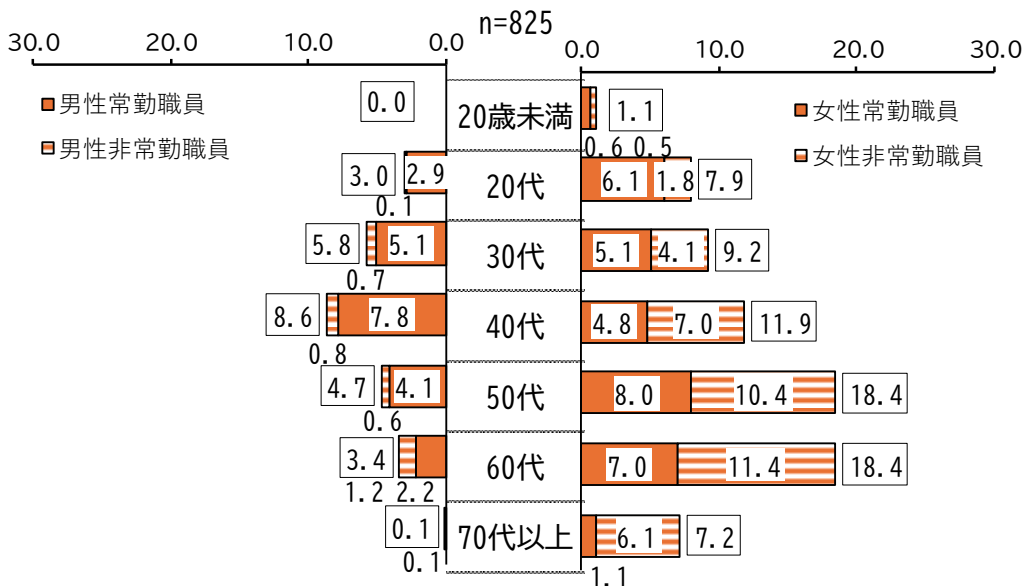
訪問系



通所系



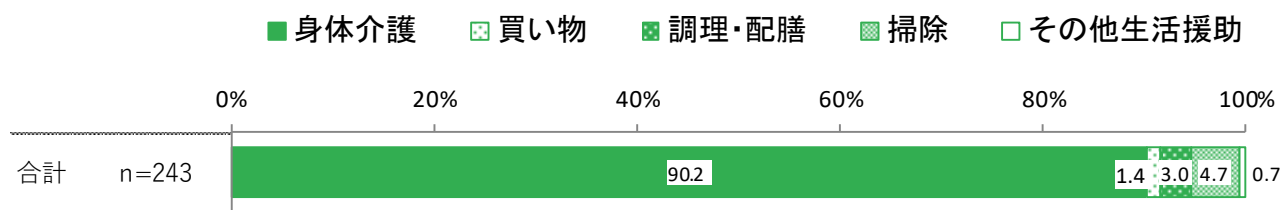
施設・居住系



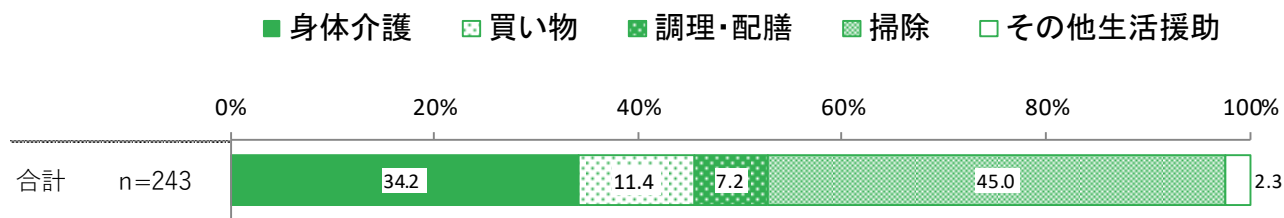
③訪問介護のサービス提供の状況

- 介護給付の訪問介護員のサービス提供時間の内訳をみると、身体介護が90.2%を占めています。
- 予防給付・総合事業の訪問介護員のサービス提供時間の内訳をみると、身体介護が34.2%に対して、掃除45.0%、買い物が11.4%、調理・配膳が7.2%、その他生活援助2.3%と生活援助が60%以上を占めています。

■訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳（介護給付）

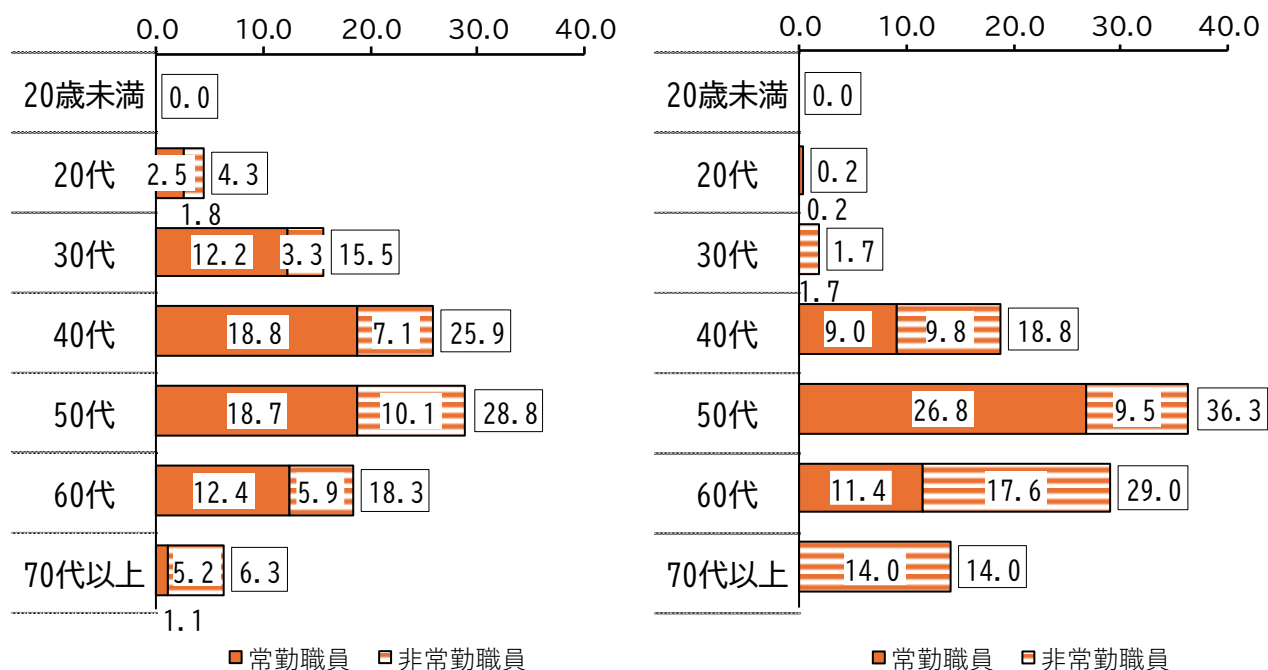


■訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳（予防給付・総合事業）



■職員の年齢別訪問介護提供時間（予防給付・総合事業）

身体介護 生活援助



■調査のポイント・今後の取り組み

今後の高齢者の増加及び介護職員の高齢化を考えると、引き続き介護人材の確保に関する対策を継続していくことが求められています。

また、予防給付・総合事業の訪問介護における生活援助について、住民主体の助け合い活動の支援や民間企業による生活支援サービスを利用しやすくするなど、多様な主体によるサービス提供を後押しする支援の検討が求められています。

5 日常生活圏域別の状況について

(1) 日常生活圏域の設定について

- 日常生活圏域とは、地域の実情を踏まえたサービスの基盤整備を行うため、介護保険事業計画において、当該市町村がその住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件・人口・交通事情その他の社会的条件を総合的に勘案して定める区域となっています。本市では、以下の5つの日常生活圏域を設定しています。

日常生活圏域	対象となる連区等
北部地域	水野・西陵
東部地域	品野・下品野・東明
中央地域東	古瀬戸・道泉・深川・祖母懐・陶原
中央地域西	效範・水南・長根
南部地域	山口・本地・菱野・新郷・原山台・萩山台・八幡台

[illegible]

(2) 地域別の状況の市平均との比較

①各種指標に基づく分析

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の結果に基づき、以下の項目について、各圏域における調査結果の集計を市全域の集計と比較することで、それぞれの圏域の特徴・課題を分析します。

項目	内容
1. 統計指標	○年齢別人口 ○高齢化率
2. 高齢者の状況	○単身世帯の割合 ○高齢者夫婦のみ世帯の割合 ○各種要介護リスクの状況
3. 地域での活動	○地域づくり活動（参加者）への参加意向 ○地域づくり活動（企画・運営）への参加意向 ○ボランティアグループ参加率 ○老人クラブ参加率 ○町内会・自治会参加率 ○支援や助け合いの活動意向
4. 健康観や幸福感	○主観的健康観 ○幸福感 ○趣味の有無 ○生きがいの有無
5. 孤立の状況	○孤食の状況 ○友人との交流の少なさ ○心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない ○看病や世話をしてくれる人がいない ○昨年と比べて外出の回数が減っている ○外出を控えている
6. 在宅介護の状況	○老々介護の割合 ○施設等への入所・入居の検討 ○介護保険以外の支援・サービスの利用 ○介護保険サービスの利用の有無 ○訪問診療の利用の有無 ○主な介護者が行う介護の種類 ○就労継続の見通し ○成年後見制度の認知度（新規）

②地域課題の分析における留意事項

- 市全域の人口・圏域別・年齢別人口は、令和7年10月1日現在の瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口に基づきます。
- 地域カルテに掲載している、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査に基づく数値については、要支援者の割合の違いによって地区ごとの数値にばらつきが出て比較ができなくなることを防ぐため、要支援者を除いた一般高齢者のみの数値を用いています。
- 各圏域の要介護リスクの状況についてのレーダーチャートについては、各リスクの割合を平均50、標準偏差10に揃えた標準得点（偏差値）で比較しています。

③地域カルテ指標

- 地域カルテにおいて指標として用いた数値の定義は以下のとおりです。

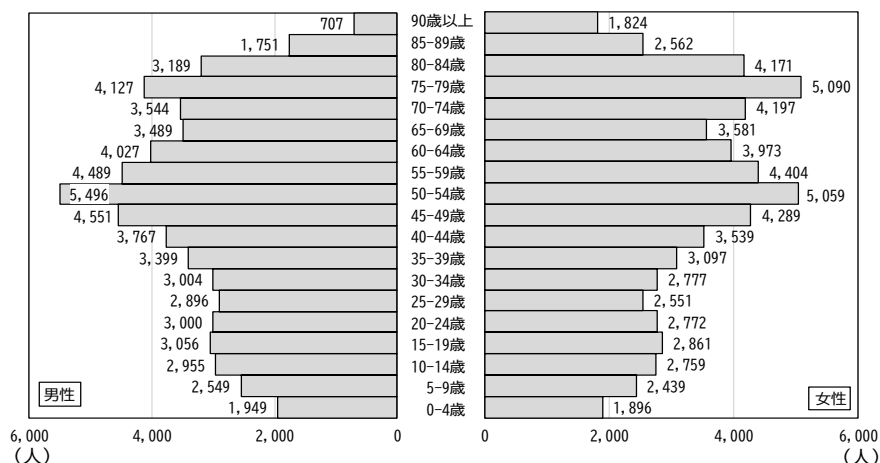
	指標	説明
1	単身世帯の割合	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問2で「1人暮らし」を回答した割合。
2	高齢者夫婦のみ世帯の割合	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問2で「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」を回答した割合。
3	リスクの割合	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から算出された各リスクの割合。
4	地域づくり活動への参加意向（参加者として）	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問64で、「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」のいずれかを回答した割合。
5	地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問66で、「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」のいずれかを回答した割合。
6	ボランティアのグループ参加率 老人クラブ参加率 町内会・自治会参加率	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問62で、①ボランティアのグループ、⑧老人クラブ、⑨町内会・自治会のそれぞれについて、「参加していない」以外を回答した割合。
7	支援・助け合い活動可能数平均	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問67で「特にできることはない」「無回答」以外の助け合い活動を回答した数の平均。
8	主観的健康感が良い	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問80で「とてもよい」または「まあよい」を回答した割合。
9	幸福感がある（8点以上）	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問81で「8点」「9点」「10点」のいずれかを回答した割合。
10	趣味がある	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問56で「はい」と回答した割合。
11	生きがいがある	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問57で「はい」と回答した割合。
12	誰かと食事をとにもする機会がない	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問32で「ほとんどない」と回答した割合。
13	友人との交流がない	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問78で「0人（いない）」と回答した割合。
14	心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問72で「そのような人はいない」と回答した割合。
15	看病や世話をしてくれる人がいない	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問74で「そのような人はいない」と回答した割合。
16	昨年と比べて外出の回数が減っている	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問17で「とても減っている」または「減っている」と回答した割合。
17	外出を控えている	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問18で「はい」と回答した割合。
18	主な介護者が70歳以上	在宅介護実態調査B票問4で主な介護者の年齢について「70歳代」または「80歳以上」と回答した割合。
19	施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	在宅介護実態調査A票問4で「入所・入居を検討している」または「すでに入所・入居申し込みをしている」と回答した割合。
20	利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	在宅介護実態調査A票問8で「利用していない」「無回答」以外の支援・サービスを回答した数の平均。
21	介護保険サービスを利用していない	在宅介護実態調査A票問6で「利用していない」と回答した割合。
22	訪問診療を利用していない	在宅介護実態調査A票問10で「利用していない」と回答した割合。
23	主な介護者が行う介護の種類の平均	在宅介護実態調査B票問5で「わからない」「無回答」以外の介護等を回答した数の平均。
24	就労継続の見通しが困難	在宅介護実態調査B票問10で「続けていくのは、やや難しい」または「続けていくのは、かなり難しい」と回答した割合。
25	成年後見制度の認知度（新規）	在宅介護実態調査B票問13で「よく知っている」または「だいたいの内容は知っている」と回答した割合。

(3) 圏域別の状況

①市全域

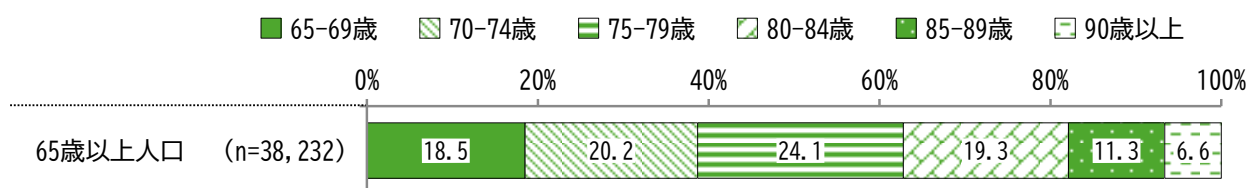
- 高齢者の人口は75～79歳が最も多くなっており、今後この年代がさらに高齢化することで、支援が必要な高齢者が増加することが見込まれます。
- 前回調査との違いとして、「生きがいがある」の割合が31.2%、「趣味がある」の割合が14.7%それぞれ減少しており、高齢者の生きがいづくり活動の支援の重要性がうかがえます。「外出を控えている」という割合は10%以上減少し、前回の新型コロナウイルス感染症の影響を受けたと考えられる時期とは、一変していることがうかがえます。在宅介護の状況では、介護者について、「働きながら介護を続けていくことが難しい」と考える人が前回調査から7.9%増加し、20.0%となっています。
- 要介護リスクについては、全体的に悪化していませんが、転倒リスクのみ微増しており、引き続き介護予防の取組の重要性がうかがえます。

■人口ピラミッド（人口：125,786人、65歳以上：30.4%、75歳以上：18.6%）



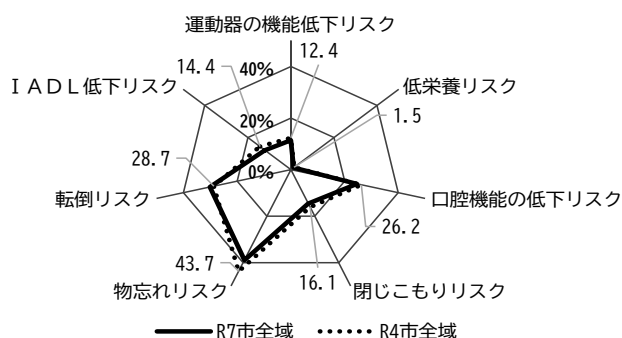
出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市年齢別・男女別人口

■年齢別高齢者人口割合



出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市年齢別人口

■要介護リスクの状況（前回調査との比較）



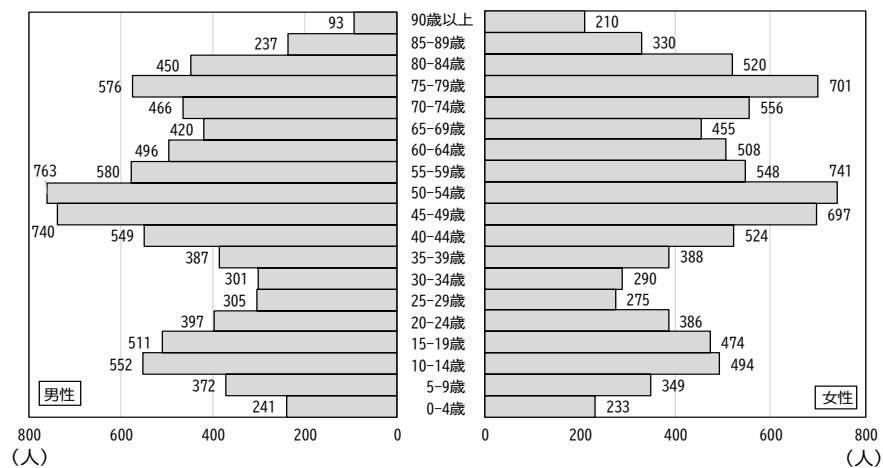
地域カルテ 【市全域】					
指標等項目	数値	前回との差	指標等項目	数値	前回との差
1. 統計指標					
人口	125,786 人	-2,557	高齢化率	30.4%	0.5%
高齢者人口	38,232 人	-201	75 歳以上人口率	18.6%	2.1%
75 歳以上人口	23,421 人	2,194	85 歳以上人口率	5.4%	0.6%
2. 高齢者の状況					
単身世帯の割合	15.5%	-0.7%	口腔機能低下リスク	24.6%	-1.6%
高齢者夫婦のみ世帯の割合	46.7%	0.2%	閉じこもりリスク	14.5%	-1.6%
虚弱リスク	7.1%	-1.1%	物忘れリスク	38.9%	-4.8%
運動器の機能低下リスク	11.4%	-1.0%	転倒リスク	30.1%	1.4%
低栄養リスク	1.3%	-0.2%	I A D L 低下	12.1%	-2.3%
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	51.7%	-0.7%	老人クラブ参加率	3.1%	-1.2%
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	34.6%	3.4%	町内会・自治会参加率	32.6%	7.3%
ボランティアのグループ参加率	11.1%	-3.8%	支援・助け合い活動可能数平均	2.66	0.11
4. 健康観や幸福感					
主観的健康感が良い	74.1%	-3.4%	趣味がある	62.0%	-14.7%
幸福感がある（8 点以上）	35.0%	0.0%	生きがいがある	47.1%	-31.2%
5. 孤立の状況					
誰かと食事をとにもする機会がない	7.4%	-0.2%	看病や世話をしてくれる人がいない	4.1%	-0.8%
友人との交流がない	18.2%	-0.6%	昨年と比べて外出の回数が減っている	23.1%	-4.9%
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	3.6%	-0.4%	外出を控えている	13.7%	-15.2%
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	43.7%	5.5%	訪問診療を利用していない	68.4%	-8.2%
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	33.4%	3.0%	主な介護者が行う介護の種類の平均	6.36	0.38
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	1.86	0.04	就労継続の見通しが困難	20.0%	7.9%
介護保険サービスを利用していない	30.3%	5.6%	成年後見制度の認知度（新規）	36.6%	-

	施設	圏域	施設数	定員/戸数	備考	指定
1	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	中央地域東	3	170	定員数	愛知県
		中央地域西	1	70	定員数	愛知県
		南部地域	1	80	定員数	愛知県
2	介護老人保健施設	北部地域	1	100	定員数	愛知県
3	介護医療院	北部地域	1	100	定員数	愛知県
4	養護老人ホーム	東部地域	1	50	定員数	愛知県
5	軽費老人ホーム(ケアハウス)	中央地域東	1	47	定員数	愛知県
		中央地域西	1	23	定員数	愛知県
6	シルバーハウジング	中央地域東	1	24	戸数	
		中央地域西	1	12	戸数	
7	有料老人ホーム	北部地域	4	83	居室数	愛知県
		東部地域	3	53	居室数	愛知県
		中央地域東	4	84	居室数	愛知県
		中央地域西	14	417	居室数	愛知県
		南部地域	16	533	居室数	愛知県
8	サービス付き高齢者向け住宅	中央地域東	2	51	戸数	愛知県
		中央地域西	3	53	戸数	愛知県
		南部地域	1	48	戸数	愛知県
9	地域密着型介護老人福祉施設	中央地域東	1	29	定員数	瀬戸市
		南部地域	1	29	定員数	瀬戸市
10	通所介護(地域密着型)	中央地域東	2			瀬戸市
		中央地域西	4			瀬戸市
		北部地域	3			瀬戸市
		東部地域	1			瀬戸市
		南部地域	5			瀬戸市
11	認知症対応型通所介護	中央地域西	3			瀬戸市
		南部地域	1			瀬戸市
12	小規模多機能型居宅介護	中央地域東	1			瀬戸市
		南部地域	1			瀬戸市
13	看護小規模多機能型居宅介護	中央地域西	1			瀬戸市
14	グループホーム	北部地域	1	9	定員数	瀬戸市
		東部地域	2	18	定員数	瀬戸市
		中央地域東	5	54	定員数	瀬戸市
		中央地域西	3	27	定員数	瀬戸市
		南部地域	2	18	定員数	瀬戸市
(出典) 1～9：愛知県HP 高齢者向け施設のご案内 (R7年6月1日現在)						
10～14:瀬戸市 サービス事業所一覧(R7年5月1日現在)						

②北部地域（水野・西陵連区）

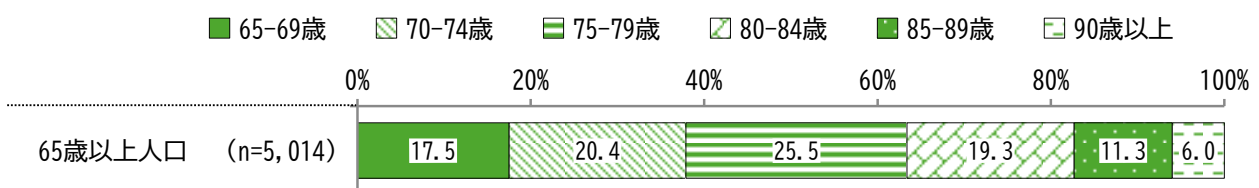
- 高齢者の年齢構成はほぼ市全域と同様の傾向となっており、今後人口の多い70歳代が高齢化することで、支援が必要な高齢者が増加することが見込まれます。
- 高齢者の状況をみると、物忘れリスクが市全域より5.0%高くなっています。
- 地域活動の状況では、地域での活動におけるその他の指標においても平均を上回っており、「参加者としての地域づくり活動への参加意向」が市全域より7.7%高くなっています。
- 主観的健康観、幸福感が市全域を上回っているものの、「生きがいがある」の割合が市全域より5.0%低くなっています。
- 在宅介護の状況をみると、「介護保険サービスを利用していない」及び「訪問診療を利用していない」の割合が市全域より6.1%高く、「就労継続の見通しが困難」の割合が市全域より20.0%高くなっています。

■人口ピラミッド（人口：17,115人、65歳以上：29.3%、75歳以上：18.2%）



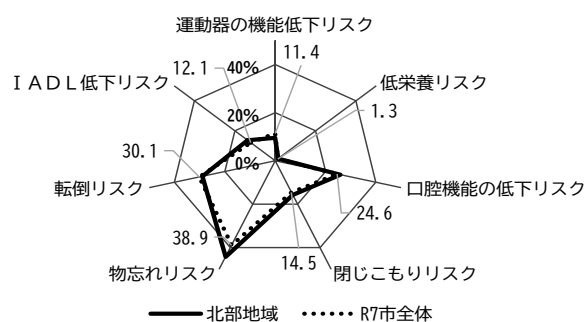
出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口

■年齢別高齢者人口割合



出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市年齢別人口

■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）



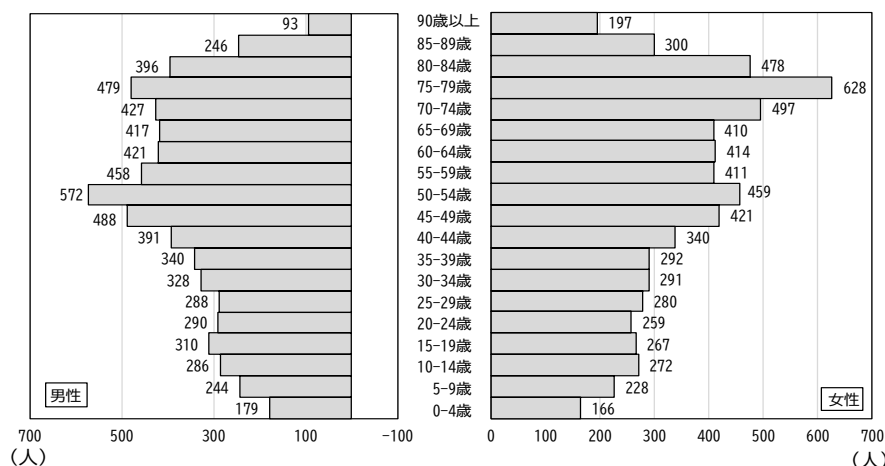
地域カルテ 【北部地域】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	17,115 人	-	高齢化率	29.3%	-1.1%
高齢者人口	5,014 人	-	75 歳以上人口率	18.2%	-0.4%
75 歳以上人口	3,117 人	-	85 歳以上人口率	5.1%	-0.3%
2. 高齢者の状況					0
単身世帯の割合	15.2%	-0.3%	口腔機能低下リスク	25.9%	1.3%
高齢者夫婦のみ世帯の割合	49.7%	3.0%	閉じこもりリスク	15.7%	1.2%
虚弱リスク	5.6%	-1.5%	物忘れリスク	44.2%	5.3%
運動器の機能低下リスク	9.6%	-1.8%	転倒リスク	28.9%	-1.2%
低栄養リスク	1.5%	0.2%	I A D L 低下	13.7%	1.6%
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	59.4%	7.7%	老人クラブ参加率	3.5%	0.4%
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	37.5%	2.9%	町内会・自治会参加率	36.0%	3.4%
ボランティアのグループ参加率	13.7%	2.6%	支援・助け合い活動可能数平均	2.79	0.13
4. 健康観や幸福感					
主観的健康感が良い	76.2%	2.1%	趣味がある	62.4%	0.4%
幸福感がある（8 点以上）	37.1%	2.1%	生きがいがある	42.1%	-5.0%
5. 孤立の状況					
誰かと食事をとにもする機会がない	10.2%	2.8%	看病や世話をしてくれる人がいない	2.5%	-1.6%
友人との交流がない	15.2%	-3.0%	昨年と比べて外出の回数が減っている	23.9%	0.8%
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	3.6%	0.0%	外出を控えている	15.2%	1.5%
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	40.5%	-3.2%	訪問診療を利用していない	74.5%	6.1%
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	29.1%	-4.3%	主な介護者が行う介護の種類の平均	7.14	0.78
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	1.50	-0.36	就労継続の見通しが困難	40.0%	20.0%
介護保険サービスを利用していない	36.4%	6.1%	成年後見制度の認知度（新規）	51.3%	14.7%

施設 ▼	施設数 ▼	定員/戸数 ▼	備考 ▼	指定 ▼
介護老人保健施設	1	100	定員数	愛知県
介護医療院	1	100	定員数	愛知県
有料老人ホーム	4	83	居室数	愛知県
通所介護(地域密着型)	3			瀬戸市
グループホーム	1	9	定員数	瀬戸市

③東部地域（品野・下品野・東明連区）

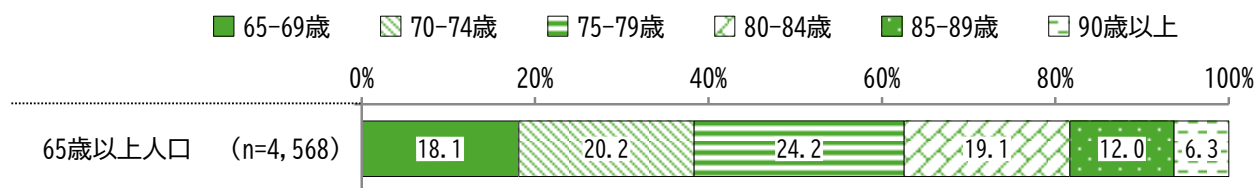
- 高齢化率、75歳以上人口率ともに5圏域の中で最も高く、本市において最も高齢化が進んだ地域となっています。
- 高齢者の状況をみると、市全域より数値の低い項目が多く、物忘れリスク、虚弱リスク、運動器の機能低下リスク、転倒リスクが市全域より下回っています。
- 地域での活動については、「町内会・自治会参加率」が3.4%高くなっています。
- 孤立の状況について、「外出を控えている」以外の項目において市全域より下回っています。
- 在宅介護の状況をみると、「介護保険サービスを利用していない」が13.2%、「施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている」が7.9%、「就労継続の見通しが困難」が3.1%で市全域より高くなっています。

■人口ピラミッド（人口：13,263人、65歳以上34.4：％、75歳以上：21.2％）



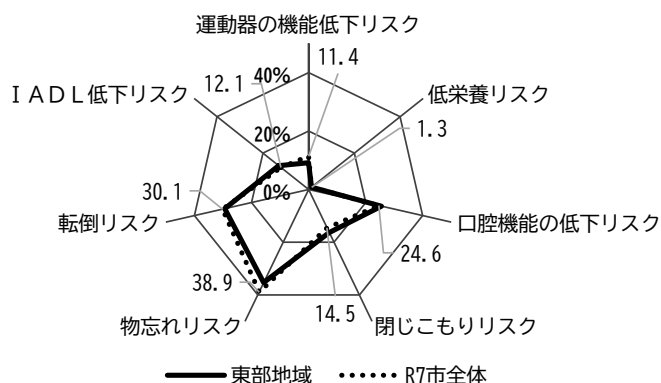
出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口

■年齢別高齢者人口割合



出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市年齢別人口

■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）



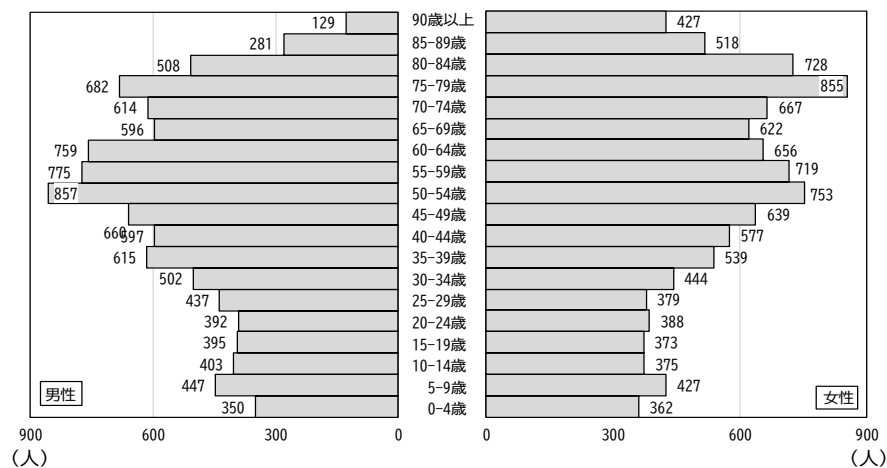
地域カルテ 【東部地域】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	13,263 人	-	高齢化率	34.4%	4.0%
高齢者人口	4,568 人	-	75 歳以上人口率	21.2%	2.6%
75 歳以上人口	2,817 人	-	85 歳以上人口率	6.3%	0.9%
2. 高齢者の状況					
単身世帯の割合	11.8%	-3.7%	口腔機能低下リスク	25.5%	0.9%
高齢者夫婦のみ世帯の割合	47.1%	0.4%	閉じこもりリスク	16.3%	1.8%
虚弱リスク	3.9%	-3.2%	物忘れリスク	35.3%	-3.6%
運動器の機能低下リスク	9.2%	-2.2%	転倒リスク	29.4%	-0.7%
低栄養リスク	1.3%	0.0%	I A D L 低下	13.1%	1.0%
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	48.4%	-3.3%	老人クラブ参加率	2.7%	-0.4%
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	31.5%	-3.1%	町内会・自治会参加率	41.9%	9.3%
ボランティアのグループ参加率	13.1%	2.0%	支援・助け合い活動可能数平均	2.81	0.15
4. 健康観や幸福感					
主観的健康感が良い	76.5%	2.4%	趣味がある	58.2%	-3.8%
幸福感がある（8 点以上）	35.3%	0.3%	生きがいがある	47.1%	0.0%
5. 孤立の状況					
誰かと食事をともにする機会がない	2.6%	-4.8%	看病や世話をしてくれる人がいない	3.3%	-0.8%
友人との交流がない	15.7%	-2.5%	昨年と比べて外出の回数が減っている	22.3%	-0.8%
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	2.6%	-1.0%	外出を控えている	13.7%	0.0%
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	37.9%	-5.8%	訪問診療を利用していない	58.7%	-9.7%
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	41.3%	7.9%	主な介護者が行う介護の種類の平均	7.48	1.12
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	2.07	0.21	就労継続の見通しが困難	23.1%	3.1%
介護保険サービスを利用していない	43.5%	13.2%	成年後見制度の認知度（新規）	27.5%	-9.1%

施設 ▼	施設数 ▼	定員/戸数 ▼	備考 ▼	指定 ▼
養護老人ホーム	1	50	定員数	
有料老人ホーム	3	53	居室数	愛知県
通所介護(地域密着型)	1			瀬戸市
グループホーム	2	18	定員数	瀬戸市

④中央地域東（古瀬戸・道泉・深川・祖母懷・陶原連区）

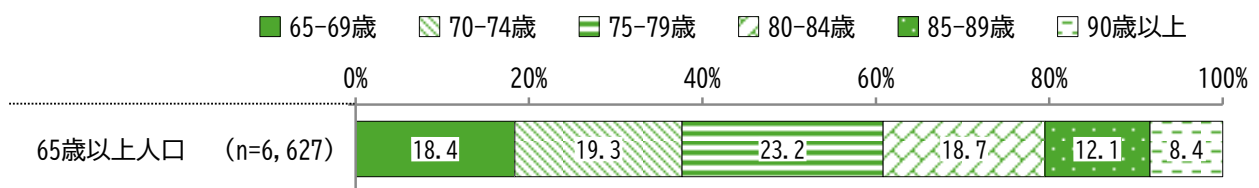
- 高齢化率は5圏域の中では2番目に高くなっています。また、高齢者に占める75歳以上の割合が5圏域で最も高くなっています。
- 高齢者の状況をみると、市全域より数値の高い項目が多く、中でも転倒リスク、口腔機能低下リスク、虚弱リスクが高くなっています。
- 地域での活動について、「企画・運営としての地域づくりへの参加意向」が市全域より4.0%高くなっています。
- 「誰かと食事をとる機会がない」、「友人との交流がない」といった孤立のリスクに関する項目が市全域を上回っています。
- 在宅介護の状況をみると、「介護保険サービスを利用していない」が市全域より9%低く、「訪問診療を利用していない」が市全域より10.3%高くなっています。

■人口ピラミッド（人口：20,447人、65歳以上：32.4%、75歳以上：20.2%）



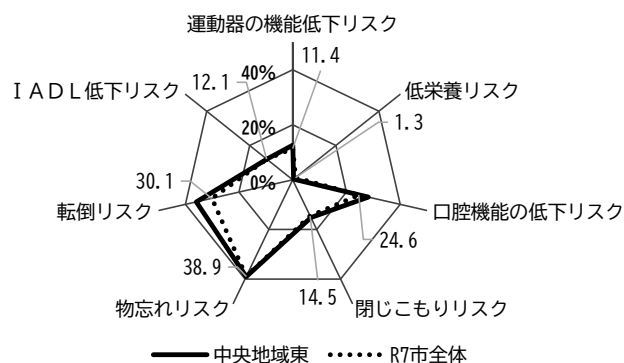
出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口

■年齢別高齢者人口割合



出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市年齢別人口

■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）



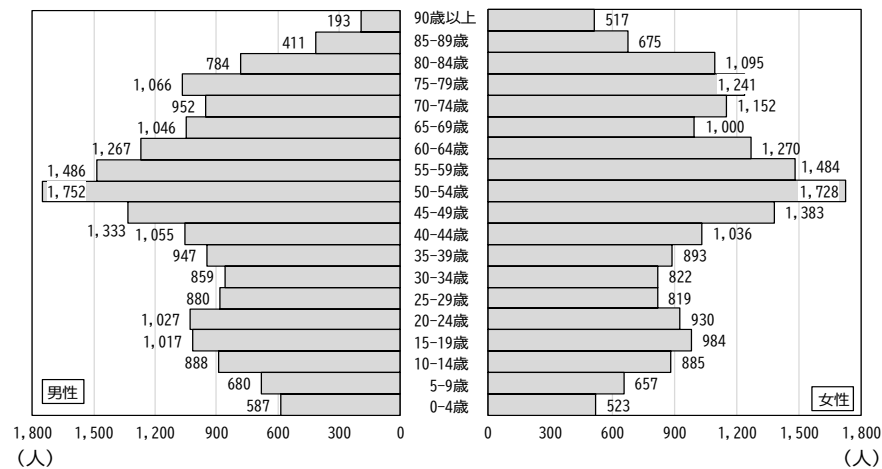
地域カルテ 【中央地域東】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	20,447 人	-	高齢化率	32.4%	2.0%
高齢者人口	6,627 人	-	75 歳以上人口率	20.2%	1.6%
75 歳以上人口	4,128 人	-	85 歳以上人口率	6.6%	1.2%
2. 高齢者の状況					
単身世帯の割合	18.2%	2.7%	口腔機能低下リスク	28.1%	3.5%
高齢者夫婦のみ世帯の割合	44.2%	-2.5%	閉じこもりリスク	15.2%	0.7%
虚弱リスク	9.1%	2.0%	物忘れリスク	39.0%	0.1%
運動器の機能低下リスク	12.6%	1.2%	転倒リスク	35.9%	5.8%
低栄養リスク	0.4%	-0.9%	I A D L 低下	12.1%	0.0%
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	50.7%	-1.0%	老人クラブ参加率	2.6%	-0.5%
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	38.6%	4.0%	町内会・自治会参加率	34.2%	1.6%
ボランティアのグループ参加率	12.2%	1.1%	支援・助け合い活動可能数平均	2.49	-0.17
4. 健康観や幸福感					
主観的健康感が良い	74.9%	0.8%	趣味がある	62.8%	0.8%
幸福感がある（8 点以上）	36.3%	1.3%	生きがいがある	48.5%	1.4%
5. 孤立の状況					
誰かと食事をとにもする機会がない	10.0%	2.6%	看病や世話をしてくれる人がいない	3.9%	-0.2%
友人との交流がない	20.3%	2.1%	昨年と比べて外出の回数が減っている	22.0%	-1.1%
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	2.6%	-1.0%	外出を控えている	14.7%	1.0%
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	42.6%	-1.1%	訪問診療を利用していない	78.7%	10.3%
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	29.5%	-3.9%	主な介護者が行う介護の種類の平均	5.56	-0.80
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	1.62	-0.24	就労継続の見通しが困難	14.3%	-5.7%
介護保険サービスを利用していない	21.3%	-9.0%	成年後見制度の認知度（新規）	38.3%	1.7%

施設	施設数	定員/戸数	備考	指定
特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	3	170	定員数	愛知県
軽費老人ホーム(ケアハウス)	1	47	定員数	
シルバーハウジング	1	24	戸数	
有料老人ホーム	4	84	居室数	愛知県
サービス付き高齢者向け住宅	2	51	戸数	愛知県
地域密着型介護老人福祉施設	1	29	定員数	瀬戸市
通所介護(地域密着型)	2			瀬戸市
小規模多機能型居宅介護	1			
グループホーム	5	54	定員数	瀬戸市

⑤中央地域西（効範・水南・長根連区）

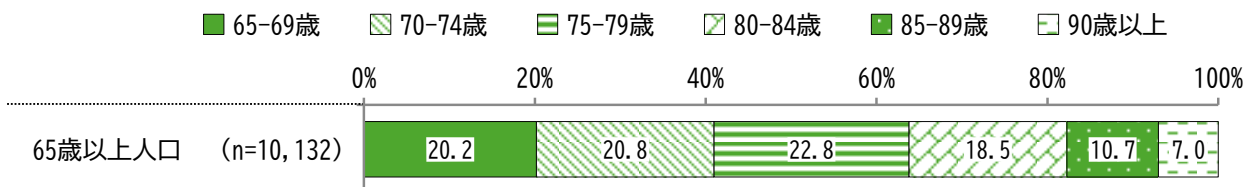
- 高齢化率、75歳以上人口率ともに5圏域の中で最も低く、75歳前後のいわゆる団塊の世代より、40歳代後半から50歳代前半の団塊ジュニア世代の人口の方が多いのが特徴です。
- 高齢者の状況をみると、全体的に市全域の数値を下回っています。
- 地域活動の状況は5圏域の中でも全般的に低く、特に町内会・自治会への参加率は、市全域より9.6%低くなっています。
- 「施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている」が市全域を3.8%上回っています。

■人口ピラミッド（人口：37,324人、65歳以上：27.1%、75歳以上：16.0%）



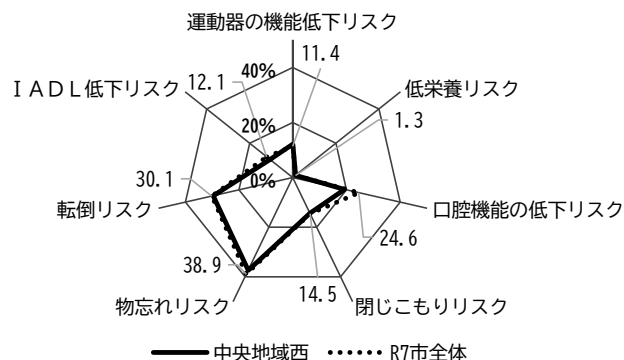
出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市連区別年齢別・男女別人口

■年齢別高齢者人口割合



出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市年齢別人口

■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）



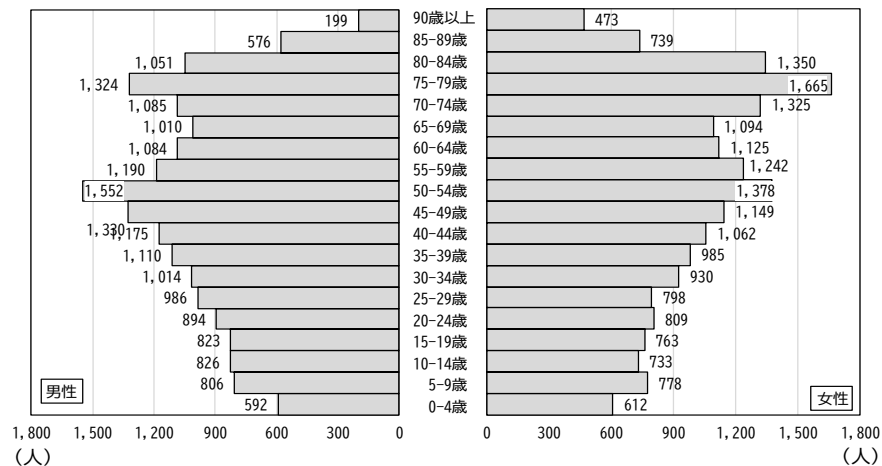
地域カルテ 【中央地域西】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	37,324 人	-	高齢化率	27.1%	-3.3%
高齢者人口	10,132 人	-	75 歳以上人口率	16.0%	-2.6%
75 歳以上人口	5,982 人	-	85 歳以上人口率	4.8%	-0.6%
2. 高齢者の状況					
単身世帯の割合	14.0%	-1.5%	口腔機能低下リスク	19.3%	-5.3%
高齢者夫婦のみ世帯の割合	49.2%	2.5%	閉じこもりリスク	14.3%	-0.2%
虚弱リスク	7.1%	0.0%	物忘れリスク	37.3%	-1.6%
運動器の機能低下リスク	12.2%	0.8%	転倒リスク	29.6%	-0.5%
低栄養リスク	1.3%	0.0%	I A D L 低下	10.6%	-1.5%
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	50.0%	-1.7%	老人クラブ参加率	1.4%	-1.7%
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	30.7%	-3.9%	町内会・自治会参加率	23.0%	-9.6%
ボランティアのグループ参加率	7.5%	-3.6%	支援・助け合い活動可能数平均	2.62	-0.04
4. 健康観や幸福感					
主観的健康感が良い	72.5%	-1.6%	趣味がある	64.6%	2.6%
幸福感がある（8 点以上）	36.5%	1.5%	生きがいがある	48.1%	1.0%
5. 孤立の状況					
誰かと食事をとにもする機会がない	5.6%	-1.8%	看病や世話をしてくれる人がいない	3.7%	-0.4%
友人との交流がない	20.4%	2.2%	昨年と比べて外出の回数が減っている	23.8%	0.7%
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	3.7%	0.1%	外出を控えている	13.8%	0.1%
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	43.7%	0.0%	訪問診療を利用していない	66.0%	-2.4%
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	37.2%	3.8%	主な介護者が行う介護の種類の平均	6.00	-0.36
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	1.94	0.08	就労継続の見通しが困難	17.3%	-2.7%
介護保険サービスを利用していない	30.9%	0.6%	成年後見制度の認知度（新規）	40.6%	4.0%

施設 ▼	施設数 ▼	定員/戸数 ▼	備考 ▼	指定 ▼
特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	1	80	定員数	愛知県
有料老人ホーム	16	533	居室数	愛知県
サービス付き高齢者向け住宅	1	48	戸数	愛知県
地域密着型介護老人福祉施設	1	29	定員数	瀬戸市
通所介護(地域密着型)	5			瀬戸市
認知症対応型通所介護	1			瀬戸市
小規模多機能型居宅介護	1			
グループホーム	2	18	定員数	瀬戸市

⑥南部地域（山口・本地・菱野・新郷・原山台・萩山台・八幡台連区）

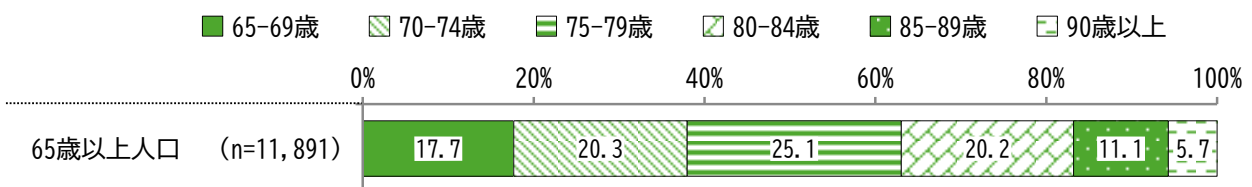
- 人口、高齢者人口、75歳以上人口はいずれも5圏域の中で最も多くなっています。
- 高齢者の状況をみると、市全域より転倒リスク、閉じこもりリスクがやや下回っています。
- 町内会・自治会への参加率は、市全域より2.5%高くなっています。
- 幸福感が5圏域の中で最も低くなっています。主観的健康観、「趣味がある」も市全域よりやや低くなっています。
- 在宅介護の状況をみると、「介護保険サービスを利用していない」が5.1%、「就労の見通しが困難」が5.2%で市全域より低くなっています。

■人口ピラミッド（人口：37,637人、65歳以上：31.6%、75歳以上：19.6%）



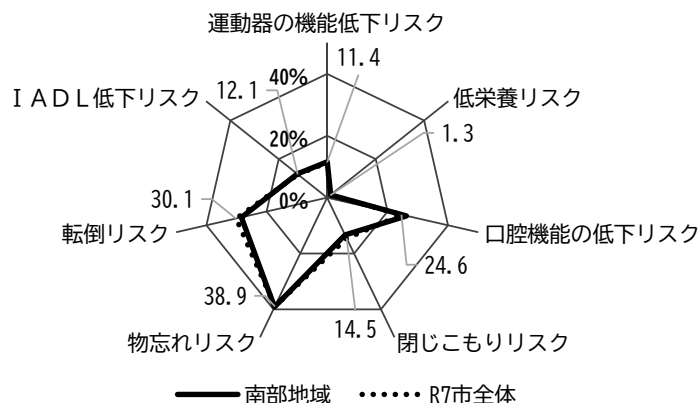
出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市連区別年齢別・男女別人口

■年齢別高齢者人口割合



出典：令和7年10月1日現在 瀬戸市年齢別人口

■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）



地域カルテ 【南部地域】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	37,637 人	-	高齢化率	31.6%	1.2%
高齢者人口	11,891 人	-	75 歳以上人口率	19.6%	1.0%
75 歳以上人口	7,377 人	-	85 歳以上人口率	5.3%	-0.1%
2. 高齢者の状況					
単身世帯の割合	16.8%	1.3%	口腔機能低下リスク	26.2%	1.6%
高齢者夫婦のみ世帯の割合	44.5%	-2.2%	閉じこもりリスク	13.3%	-1.2%
虚弱リスク	7.6%	0.5%	物忘れリスク	39.1%	0.2%
運動器の機能低下リスク	11.6%	0.2%	転倒リスク	28.4%	-1.7%
低栄養リスク	1.5%	0.2%	I A D L 低下	12.3%	0.2%
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	51.5%	-0.2%	老人クラブ参加率	4.5%	1.4%
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	35.5%	0.9%	町内会・自治会参加率	35.1%	2.5%
ボランティアのグループ参加率	11.6%	0.5%	支援・助け合い活動可能数平均	2.68	0.02
4. 健康観や幸福感					
主観的健康感が良い	73.1%	-1.0%	趣味がある	60.5%	-1.5%
幸福感がある（8 点以上）	32.1%	-2.9%	生きがいがある	47.6%	0.5%
5. 孤立の状況					
誰かと食事をともにする機会がない	8.1%	0.7%	看病や世話をしてくれる人がいない	5.5%	1.4%
友人との交流がない	17.5%	-0.7%	昨年と比べて外出の回数が減っている	23.1%	0.0%
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	4.4%	0.8%	外出を控えている	12.4%	-1.3%
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	44.7%	1.0%	訪問診療を利用していない	66.4%	-2.0%
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	31.9%	-1.5%	主な介護者が行う介護の種類の平均	6.24	-0.12
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	1.94	0.08	就労継続の見通しが困難	14.8%	-5.2%
介護保険サービスを利用していない	25.2%	-5.1%	成年後見制度の認知度（新規）	28.2%	-8.4%

施設	圏域	施設数	定員/戸	備考	指定
特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	南部地域	1	80	定員数	愛知県
有料老人ホーム	南部地域	16	533	居室数	愛知県
サービス付き高齢者向け住宅	南部地域	1	48	戸数	愛知県
地域密着型介護老人福祉施設	南部地域	1	29	定員数	瀬戸市
通所介護(地域密着型)	南部地域	5			瀬戸市
認知症対応型通所介護	南部地域	1			瀬戸市
小規模多機能型居宅介護	南部地域	1			瀬戸市
グループホーム	南部地域	2	18	定員数	瀬戸市